

名城大学FD活動報告書

Meijo Faculty Development activity report

平成23年度

名城大学

FD委員会

目 次

1. はじめに

- 平成23年度のFD活動を振り返って 1
FD委員会委員長 森川 章

2. 平成23年度FD活動一覧 3

3. 平成23年度FD委員会

- FD委員会各チームメンバー表 7
- FD委員会活動記録・FD企画委員会活動記録 8

4. 平成23年度各FDチーム活動報告

- 自主開発チーム活動報告 9
自主開発チーム座長 小池 聡（都市情報学部教授）
- ワークショップチーム活動報告 11
ワークショップチーム座長 肥田 進（法学部教授）
- 学生満足度チーム活動報告 13
学生満足度チーム座長 稲垣 公治（農学部教授）
- 教育年報チーム活動報告 15
教育年報チーム座長 杉村 忠良（理工学部教授）
- 大学院チーム活動報告 17
大学院チーム座長 成塚 重弥（理工学部教授）

5. トピックス

- 第13回FDフォーラム実施報告
 - ・FDフォーラム実施報告 19
 - ・所属別参加状況 21
 - ・参加者アンケート集計結果 23
 - ・当日配布資料 29
- 第4回T&L CAFE～授業を語り合う～実施報告
 - ・T&L CAFE～授業を語り合う～実施報告 55
 - ・参加者アンケート集計結果 57
- 教育優秀職員表彰制度在り方検討委員会における検討結果報告 61

6. 大学教育改革フォーラム in 東海2012

- 大学教育改革フォーラム in 東海2012について 63

7. 資料

- FD委員会要項 65
- 平成23年度所属別FD活動参加状況 67

8. おわりに

- 編集後記 69

1. はじめに

平成23年度のFD活動を振り返って

FD委員会委員長

森 川 章

名城大学のFD活動は平成12年度から始まり、平成23年度で12年目を迎えます。その間、FD活動の内容も変遷を遂げました。

具体的には、FD講演会・FDフォーラムのテーマを列举すると以下の通りです。

- ・平成12年度「大学力を創るFDー学生による授業評価からー」
- ・平成17年度「大学力を創るFD～学部FDからの出発～」
- ・平成22年度「学生の学習意欲を高める授業とは～学生の主体的な学びについて考える～」

そして本年度のFDフォーラムは「FDの義務化から3年～原点に立ち返って考える～」をテーマとし、本学におけるFD活動について、今一度振り返る機会を設けました。

長いFD活動の中で、本学教員のFDに対する認知度は高いものがあります。例年実施している「授業改善アンケート」は90%代の実施率であり、多くの教員に協力いただいています。反面、FDフォーラムの参加率が減少傾向であることや、各教員がFD活動に新鮮味を感じられなくなってきたようにも感じ、新しい形の名城大学FD活動が求められているのではと思います。

今年度、中根学長が就任の際、「教学執行部方針と課題」の中で「FDへの取り組みの見直し」を喫緊の課題とし、「学部・研究科主体のFD」の方針を示しました。

これを受けて、FD委員会の下に組織された各ワーキンググループでは、各学部の教育活動を支援できるような取組を模索しています。本年度だけの試みではありませんが、FDフォーラムでは各学部の教育改善の取組を全学で共有するようなプログラムを実施しました。授業改善アンケートでは各学部のアンケート結果を分かりやすい形で学部フィードバックできるよう準備を進めています。また、平成17年度から実施していた教育優秀職員表彰については、対象者は各学部教授会からの推薦とするなど、各学部の教育に貢献した教員を表彰するような制度へと変更するよう検討を重ねました。

平成24年度はこれらの課題や成果を受けて、名城大学FD活動の在り方を再検討するとともに、各学部の教育改善に資する取組を進めていく所存です。そのためには、各学部等において教育改善を継続的に進める基盤整備も必要となります。そのための環境づくりに向けたご意見もお寄せいただければ幸いです。

2. 平成23年度FD活動一覽

平成23年度 FD活動スケジュール一覧

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
FD委員会				★ 第1回FD委員会								
FD委員会企画										★ 第1回FD企画委員会		
自主開発チーム発表				★ 第1回自主開発チーム会議		★ 第2回自主開発チーム会議	★ 第3回T&L CAFE実施	★ 第3回自主開発チーム会議				
ワークショップチーム発表				★ 第1回ワークショップチーム会議	★ 第2回ワークショップチーム会議	★ 第3回FDフォーラム				★ 第3回ワークショップチーム会議		
学生満足度チーム発表				★ 第1回学生満足度チーム会議	★ 第2回学生満足度チーム会議	★ 第3回学生満足度チーム会議	★ 授業改善アンケート実施	★ アンケート結果フィードバック	★ 第4回学生満足度チーム会議	★ アンケート調査結果報告書発刊		
教育年報チーム発表				★ 第1回教育年報チーム会議	★ 第2回教育年報チーム会議	★ 第3回教育年報チーム会議	★ 教育年報原稿募集	★ 第3回教育年報チーム会議	★ 教育年報発刊			
大学院チーム発表				★ 第1回大学院チーム会議		★ 第2回大学院チーム会議	★ 第3回大学院チーム会議	★ 講義インタビュー	★ 講義インタビュー	★ 講義インタビュー		
その他活動				★ 第1回教育優秀職員表彰在り方検討委員会	★ 第2回教育優秀職員表彰在り方検討委員会	★ 第3回教育優秀職員表彰在り方検討委員会			★ FD活動報告書FD NEWS Vol.11発刊			

平成23年度 F D 活動一覧

1. 第13回 FD フォーラム

日 時：平成23年11月2日 14：00～16：50

テ ー マ：改めて FD について考える ～組織的な取組に向けて～

参加者数：134名

プログラム：

【第1部】基調講演

「FDの義務化から3年 ～原点に立ち返って考える～」

名古屋大学高等教育研究センター 准教授 中井 俊樹氏

【第2部】名城大学の教育改善の取組 ～4つの実践例～

1) 現場触発型教育・学習による就業力の育成（経営学部）

2) 初年度理数基礎教育の充実と理工学ナビゲーションシステムによる理工学教育の質の保証（理工学部）

3) 里山における生物多様性と化学的環境評価による実践的生物環境教育（農学部）

4) 英語実践力向上のための自律学習システム運営（人間学部）

5) パネルディスカッション

2. 第4回 T&L CAFE～授業を語り合う～

日 時：平成23年12月1日 12：30～14：00

参加者数：19名

概 要：

ランチをとりながら、リラックスした雰囲気の中で授業や大学教育に関することを気軽に語り合う場づくりとして、今回で4回目を迎えた。

今回は学生の授業マナー、学生への教え方、FD活動について、という3テーマについてディスカッションを行った。

ディスカッションでは、参加者が抱える授業を進める上での課題や苦心、授業工夫で大切にしていることについて報告があり、それらを踏まえて積極的な意見交換が行われた。

なお、実施アンケートの結果から、具体的な意見として「学生にも参加してもらうべきである」や「FDに限らず他学部の教員と交流を持つことが重要である」という声が聞かれた。

3. 平成23年度後期授業改善アンケート

実施期間：平成23年12月20日～平成24年1月16日

対象科目：

平成23年度後期に学部の授業を担当する専任教員および非常勤講師を対象とし、専門科目を中心に、最も履修者が多い講義科目において実施した。

実施科目数は643科目（学生回答数：延べ37,631件、教員回答数：598件）

概 要：

学生の授業に対する満足度を把握し、改善点・要望事項を把握するとともに、教員の授業に対する意識も調査し、学生・教員間の意識のギャップを確認して、調査結果を今後の授業改善の一

助とするために実施した。

集計結果と項目別の改善ポイントは、教員個人にフィードバックし、授業改善に必要な情報として活用している。また、学部単位におけるFD活動を推進することを旨に、強みと弱みを明確にした分析結果を報告書として取り纏め、全教員に配布し、授業改善の素材として活用している。学生に対しては、アンケート結果を載せたFD NEWS Vol.11を刊行し、ガイダンスでの配布をすることで、結果のフィードバックを行った。

なお、授業評価・授業満足度の把握・分析をリアルタイムで実施できるように、各キャンパスにマークカードリーダーを設置し、授業改善アンケートが実施できる環境を整備している。

4. 名城大学教育年報第6号発刊

発刊日：平成24年3月

発行部数：730部

概要：

本学における教育力の向上に資する研究および取り組みについての研究論文・教育実践報告等を募集し、審査の結果、採択されたものを掲載した。全教員および各部局に配布し、他大学にも送付した。

教育年報の種別・内容等は次のとおりである。

	教育研究論文	教育実践報告
定義	教育理論又は教育実践を対象とする学術的な手続きを踏まえた研究論文（査読あり）	教育実践を対象とした取り組みであり、広く共有できる実践報告
投稿資格	名城大学の教職員（教員・事務職員）。本大学の教育に携わる他大学等の教育職員（非常勤講師）の投稿も可。	

第6号では教育研究論文の5論文の投稿があり、査読審査を経て、4論文を掲載。教育実践報告は内容の確認を経て、7報告を掲載した。

5. 平成23年度FD活動報告書発刊

発刊日：平成24年3月

発行部数：730部

概要：

平成23年度の本学におけるFD活動をまとめたもので、FD委員会の各チームの活動報告や第13回FDフォーラムの報告を掲載した。全教員および各部局に配布し、他大学にも送付した。

6. FD NEWS Vol.11発刊

発刊日：平成24年3月

発行部数：17,500部

概要：

学生にFD活動が平易に理解できるよう周知することを目的として発刊した。本年度は平成23年度後期授業改善アンケートを中心に、本学のFD活動について掲載し、全学生に配布した。

7. 学外セミナー・研究集会等への派遣

【大学教育開発センターの予算執行分のみ掲載】

	開催日時	主催機関	企画名称	派遣人数
1	6月4～5日	大学教育学会	大学教育学会第33回（2011年）大会 「大学教育の質とは何かーふたたび大学のレゾナンスを問うー」	2名
2	6月15日	New Education Expo 実行委員会	New Education Expo 2011 「大学評価、大学改革の取り組み」	1名
3	7月14日	関西大学 教育開発支援センター	第5回 関西大学 FD フォーラム 「きく力を涵養する」	2名
4	8月2日	富士通株式会社	第3回情報戦略フォーラム 危機を乗り越える組織とは	1名
4	8月5日	神奈川大学高大連携協議会	第6回 神奈川大学高大連携協議会フォーラム 接続教育と「基礎学力」の確保	2名
5	8月23～26日	四国地区大学教職員能力開発ネットワーク	SPOD フォーラム2011 21世紀に生きる大学・高専教職員の創造	2名
6	8月26日	豊橋創造大学	キャリア教育シンポジウム	2名
7	8月30日	大学コンソーシアム八王子	第1回大学コンソーシアム八王子 FD・SD フォーラム	1名
8	9月10～11日	全国コンソーシアム協議会	第8回全国コンソーシアム研究交流フォーラム	1名
9	9月30日	独立行政法人日本学生支援機構	平成23年度「就職に関する意見交換会」	1名
10	10月4日	ベネッセコーポレーション	「大学の教育力向上を考える～データから見る学生の成長過程」	1名
11	10月8日	法政大学 教育開発支援機構 FD推進センター	法政大学 第9回 FD シンポジウム 「本当に必要な FD 活動とはー実質化のための支援・教育評価ー」	2名
12	10月18～20日	日本私立大学協会	平成23年度「大学教務部課長相当者研修会」	1名
11	10月27～28日	高等教育質保証学会	高等教育質保証学会 第1回大会	1名
12	11月4日	河合塾	「今、大学教育に求められるジェネリックスキル」 セミナー	1名
13	11月10日	ベネッセコーポレーション	産学協同就業力育成シンポジウム	1名
14	11月22日	私立大学協会	平成23年度「教育学術充実協議会」	1名
15	12月1日	立命館大学	2011年度 会員校ミーティングおよび懇談会	1名
16	2月13日	学校経営研究会	「教育と科学技術の強化に向けて」講演会	1名
17	2月28日	愛知東邦大学	就業力育成と地域連携 PBL の試み	1名
18	3月3～4日	大学コンソーシアム京都	第17回 FD フォーラム	5名
19	3月9日	筑波大学	筑波大学教育改革シンポジウム	1名
20	3月10日	名古屋経済大学	短大・大学における就業力の育成	1名
21	3月15日	京都大学	第18回教育研究フォーラム	1名

3. 平成23年度 FD 委員会

平成23年度 F D 委員会各チームメンバー表

F D 委員会 委 員 長 森川 章
副委員長 宮嶋 秀光

チーム名	Mission (任務確認)	Planning (目標設定)	メ ン バ ー		
			所 属	役 職	名 前
FD 企画 委員会		FD 委員会委員長、副委員長及び各チームの座長がメンバーとなり、各チームの企画に関する連絡調整を行い、諸活動の円滑な運営を図る。	経 営 学 部	教 授	◎森川 章
			人 間 学 部	教 授	宮嶋 秀光
			都 市 情 報 学 部	教 授	小池 聡
			法 学 部	教 授	肥田 進
			農 学 部	教 授	稲垣 公治
			理 工 学 部	教 授	杉村 忠良
			理 工 学 部	教 授	成塚 重弥
自主開発 チーム	FD の Mission : 名城大学では、FD 活動を通し、学生及び教職員のモチベーションを最大化する「名城教育力」を自主・自律の探求精神に基づき、持続的に創出する。	名城大学の教育実践の質的向上に向け、授業の工夫等について、互いの経験や知を交換し、継続的に考える場を創りだす。	経 済 学 部	准 教 授	伊藤 健司
			経 済 学 部	准 教 授	杉本 大三
			農 学 部	准 教 授	前林 正弘
			人 間 学 部	教 授	岡戸 浩子
			人 間 学 部	准 教 授	J.C.ウェストビィ
			都 市 情 報 学 部	教 授	◎小池 聡
ワーク ショップ チーム	学内外の特色ある教育及びその改善に係わる理論と実践から学び、全学での対話を通じ、教育の質保証の実現に向けた教育方法の研究を推進する。		法 学 部	教 授	◎肥田 進
			法 学 部	准 教 授	吉行 幾真
			薬 学 部	准 教 授	武田 直仁
			学 務 セ ン タ ー	事務部長	大脇 肇
			キャリアセンター	主 事	今村 栄介
学生 満足度 チーム	FD 活動方針 「学生の主体的な学びを促すための、教育活動の探求・実践および蓄積を目指した FD 環境構築」	授業や教育に対する学生の生の声に耳を傾け、創意工夫を生み出す対話を通じ、学生の主体的な学びを促す教育の研究を推進する。	経 営 学 部	教 授	伊藤 秀俊
			農 学 部	教 授	◎稲垣 公治
			薬 学 部	准 教 授	大津 史子
			総合学術研究科	教 授	加藤 幸久
			経 営 本 部	事務部長	余語 弘
			学 務 セ ン タ ー	事務部長	田中 敦夫
教育年報 チーム		名城大学における教育活動の研究・実践活動を共有・蓄積し、教育の質の向上に資することを目的とする。	経 営 学 部	教 授	謝 憲文
			理 工 学 部	教 授	◎杉村 忠良
			都 市 情 報 学 部	教 授	海道 清信
			薬 学 部	副 主 幹	田中 賢二
			都 市 情 報 学 部	副 主 幹	加藤 浩一
大学院 チーム		大学院教育で実践された FD 事例を収集し、広く学内に公表する。	理 工 学 部	教 授	◎成塚 重弥
			法 務 研 究 科	教 授	佐藤 學
			大学・学校づくり研究科	准 教 授	中島 英博
			学 務 セ ン タ ー	課 長	東 智志
			入 学 セ ン タ ー	主 事	山木 義隆

◎：各チーム座長

* 教育優秀職員表彰制度在り方検討委員会
(宮嶋副委員長、杉村委員、前林委員、田中(敦)委員)

平成23年度 FD委員会活動記録

第1回 平成23年7月11日（月）

1. FD副委員長の選出について
2. 今後の進め方について
3. 各チームの座長及び委員の選出について
4. 教育優秀職員表彰制度の在り方検討委員会の設置について
5. その他
 - 各種セミナーの案内

平成23年度 FD企画委員会活動記録

第1回 平成24年1月18日（水）

1. 各チームの活動報告について
2. 今後のFD委員会の方向性について
3. FD活動報告書等の原稿作成依頼について

4 . 平成23年度各 FD チーム活動報告

自主開発チーム活動報告

自主開発チーム

座長 小 池 聡

1. 平成23年度の活動報告

平成23年7月27日（水）及び10月6日（木）に開催されたチーム会議での検討に基づき、「第4回 T&L CAFE（Teaching and Learning CAFE）～授業を語り合う～」を実施した。開催日時は平成23年12月1日（木）12：30～14：00で、場所は昨年同様、天白キャンパス・タワー75 15階レセプションホールであった。

参加者は、開催の約1ヶ月半前よりポスターを掲示し周知に努めたが、十分な数が得られなかったため、各学部の教授会でのアナウンスや、チームメンバーによる個別の勧誘が行われた。結果として、最終的な参加者数は19名となり、昨年より若干ではあるが増加した。

プログラムは、座長挨拶ののち、6～7人の小グループに分かれ、テーブルを囲みワークショップ形式で進められた。自由に発言できる雰囲気の中で、議論は次第に熱を帯びていった。テーマとしては、「学生の授業マナー」、「学生への教え方」、「FD 活動について」の3つを取り上げ、それぞれに概ね20分の時間を配分した。

テーマごとの議論の要点は、次のとおりである。

- ① 学生の授業マナー…学生の中に、大学というアカデミックな場にいるという意識が欠如していることが根本的な問題であり、ある程度厳しい態度で対応する必要がある。
- ② 学生への教え方…ただ講義を聴かせるだけでなく、ノートの作り方の指導、体験的な学習などを盛り込む必要がある。新聞を教材に使う、授業に変化をつける、反復学習といったテクニックも大切である。
- ③ FD 活動について…授業について"気軽に"語り合うためには、まずは各学部に教員のサロンのような場所を設けるべきである。

予定では、クロージングとして議論のまとめを行うことになっていたが、実に多くの意見が出されたため、時間が不足してしまった。しかし、参加者に対するアンケート結果をみると、総じて、会に対する満足度は高かった。

2. 今後の方向性

教員レベルでの学部間交流の場として、今後も継続していくことが望ましい。また、今回採用したワークショップ形式は、議論の活性化を図るうえで有効である。しかし、開催回数としては、1回だけだとその場では議論のまとめが十分にできないため、他のグループでの議論がわからないという不満が残る。したがって、アンケート結果にも示されているが、2回開催が望ましい。

参加者層については、今回も意識したように、教育経験年数が少ない新人教員をターゲットにすることが妥当である。

3. 活動記録（チーム会議）

第1回 平成23年7月27日（水）

1. 平成23年度自主開発チームの活動について

第2回 平成23年10月6日（木）

1. 第4回 T&L CAFE の企画（案）について

第3回 平成24年3月1日（木）

1. 第4回 T&L CAFE の報告について
2. 来年度企画に向けて

ワークショップチーム活動報告

ワークショップチーム

座長 肥 田 進

1. 平成23年度の活動方針

本年度 FD 活動は「各学部主体の FD 活動」に重点を置き、その実体を把握するとともに、「各学部の教育改善の取組への支援」を行うことが方向性として示されたが、それを受けてワークショップチームは、本年度の FD フォーラムでは、各学部における教育改善の成果の報告を柱の一つとする一方、FD の義務化から 3 年目を迎えた今日、FD 活動の認識及び活動そのものがそれほど進展を見せていない現実を踏まえて、改めて原点に立ち返って FD 活動を考えることとした。

2. 平成23年度の活動実績

これまでワークショップチームの活動はもっぱら FD フォーラムを中心に行われてきたが、本年度もそれが踏襲された。本年度で13回目となる FD フォーラムは平成23年11月2日（水）に開催された。本年度の全体テーマは、「改めて FD について考える～組織的な取組に向けて～」と設定され、以下に概観するように、2 部構成で行われた。参加者は、本学教職員、学生、及び他大学関係者を含めて134名で、前年度の273名をかなり下回った。因みに本学の教員、及び事務職員の参加率は、それぞれ14.4%、16.1%であった。

<FD フォーラムの概要>

上記の通り、FD フォーラムは2 部構成で行われ、第1 部では基調講演が、第2 部では本学の教育改善の取組として4 つの学部による実践例の報告が行われ、続いてそれらを基礎とするパネルディスカッションが行われた。

第1 部の基調講演は、名古屋大学高等教育研究センターの中井俊樹准教授により、「FD の義務化から3 年～原点に立ち返って考える～」というテーマで行われた。講演では、FD の義務化から3 年目の今日における論点が整理され、今後 FD 活動を進める上で有益な多くのヒントが示唆された。

次いで第2 部では、まず経営学部の瀬川新一教授から、平成22年度文部科学省「大学生の就業力育成支援事業」に選定された「現場触発型教育・学習による就業力の育成」について報告が行われた。報告では、4 年一貫のゼミを核とするカリキュラムの再構築により、自立的な学生の就業力の育成に努めていることが紹介された。次いで理工学部の佐川雄二教授から、「初年度理数教育の充実と理工学ナビゲーションシステムによる理工学教育の質の保証」と題する報告が行われ、基礎学力低下等に対応するためのナビゲーションシステムの構築や相談室の開設等の試みが紹介された。次いで第3 番目に、農学部の新妻靖章准教授から「里山における生物多様性と化学的環境評価による実践的生物環境教育」と題する報告が行われ、環境及び環境教育の分野で活躍できる人材の育成のための取組の紹介が行われた。最後に人間学部の一ノ谷清美教授から「英語実践力向上のための自律学習システム運営」と題する報告が行われ、MiLC（名城大学自律学習センター）の設置により、気軽に英語に触れる環境が整えられていることが紹介された。FD フォーラムではこの後、武田直仁 FD 委員をコーディネーターとし、第2 部各発表者及び宮嶋秀光大学教育開発センター長によるパネルディスカッションが行われ、FD の今後のあり方、問題点などについて活発な議論が展開された。

3. 平成24年度への課題

本年度のFDフォーラムは、上記の通り、FD活動を原点に戻って再考することをメインテーマとし、基調講演を行った名古屋大学高等教育研究センターの中井俊樹准教授からは、FD活動についてその歴史や意義を含め、様々な角度から分かりやすい説明をしていただいた。しかしFDフォーラムへの参加者が、昨年度に比べてかなり減少したことからして、教職員のFD活動に対する理解や認識は必ずしも十分には深まっていないとの印象も否定できない。こうした傾向をどう解釈し評価するのかを議論しながらFDフォーラムのあり方をさらに検討し、実のあるFDフォーラムにつなげていくことが今後の課題と思われる。

4. 活動記録（チーム会議）

第1回 平成23年7月29日（金）

1. 平成23年度ワークショップチームの活動について

第2回 平成23年9月14日（水）

1. 第13回FDフォーラムの企画について

第3回 平成24年2月23日（木）

1. 第13回FDフォーラムの報告について
2. 来年度の企画に向けて

学生満足度チーム活動報告

学生満足度チーム

座長 稲垣 公治

1. 平成23年度の活動

後期授業改善アンケート調査の実施：ここ近年は後期に授業改善アンケートを実施し、授業回数のほぼ中間の7・8回目と11・12回目に行われたが、本年度は最終回の14・15回目に行った。対象授業科目は各教員担当授業のうち受講者数が最多の科目を選んで行われ、実施総授業数は643科目、参加学生数は37,631人、参加教員数は598人であった。授業実施率 $[\% = (\text{実施授業数} / \text{設定授業数}) \times 100]$ は92.7%で、例年と同水準であった。

アンケート調査結果のフィードバック：調査結果を集計後、全体報告書として全教職員に配布し、かつ全実施科目別の詳細な報告書も少数作成して、学生が閲覧しやすい場所に置いておくように努めた。また、本年度は各学部また学科単位で集計したアンケート結果をA4で1枚にまとめた報告書も作成し、各学部等へ配布し議論開始を促すように努めた。

2. 平成24年度への課題

平成24年度については、授業改善アンケートを前期と後期の2回実施すべく検討中である。平成23年度の調査結果をふまえて、具体的にどのようにしてアンケート結果を授業改善に繋がるように仕組みを整えるかについては、検討が必要である。

本学においては、これまで授業改善アンケート調査は紙媒体を使って実施してきたが、Webを用いて実施してはどうかという意見も根強い。この件については、Webでアンケートを実施することによってアンケート回収率が大幅に低下する可能性が高いこと、また短時間でアンケートサーバにアクセスできる件数に限界があること、学生の携帯電話を用いてアンケートを実施することに対する是非の問題など、幾つかの議論すべき課題が残っている。

3. 活動記録（チーム会議）

第1回 平成23年8月19日（金）

1. 今季の学生満足度チーム活動方針について
2. 平成23年度授業改善アンケートの実施について
3. 授業改善アンケートシステムについて

第2回 平成23年10月28日（金）

1. 授業アンケートに係る調査結果報告
2. 平成23年度後期授業改善アンケートのWeb化を含めた在り方について

第3回 平成23年11月21日（月）

1. 平成23年度後期授業改善アンケート実施概要について
2. 平成23年度後期授業改善アンケート個別結果報告書について
3. 来年度アンケートに向けて

第4回 平成24年2月8日（水）

1. 平成23年度後期授業改善アンケート実施授業数等について
2. 平成23年度後期授業改善アンケート調査結果報告書について
3. 平成23年度後期授業改善アンケートのフィードバックについて
4. 来年度アンケートに向けて

教育年報チーム活動報告

教育年報チーム

座長 杉 村 忠 良

1. 新編集方針の継続

平成21年度に「名城大学教育年報」の編集方針が新しく確立されて、本年は2年目である。本年報は、「教育研究論文」と「教育実践報告」からなる。前者は厳正な査読ルールに基づいて掲載の可否がつけられるものであり、後者は基本的には査読なしで掲載が許可されるものである。基本的に査読なしといえども、最低限の内容と構成はチェックされる。

FDにかかわる「教育実践報告」や「教育研究論文」を学内者は言うに及ばず、学内と関連する学外者からも広く集め、適切なる仕分けをして継続的に実のある「教育年報」を作成することが本チームの主たる業務である。

2. 編集作業の流れ

平成23年度の「名城大学教育年報原稿募集のお知らせ」には、「1. 教育年報の目的 2. 投稿資格 3. 投稿内容 4. 投稿原稿の構成と表記 5. 審査 6. 提出について」が示されていた。「審査基準」が明確に示されているだけでなく、「提出後の原稿の差し替えは認められない」ことも明記されており、万全を配して提出期限平成23年10月31日必着のもとに原稿募集が実施された。事務職員の手際よさにより、昨年度に作られた編集上のルールや作業マニュアルに従って編集作業は1部をのぞいて順調に進められた。

「教育研究論文」は5編が投稿された。査読は規定どおり、外部査読者を加えて行われた。査読結果は5編中4編が掲載可となり、残り1編は教育実践報告として掲載可になった。「教育実践報告」は6編が投稿され、規定どおりすべて掲載可となった。

3. 今後の課題

研究論文のレベルを維持もしくは向上させるためには、客観的な評価をすることができる外部査読者の導入は避けて通れない問題の一つである。この分野における専門の研究者の人口はそれほど少なくないと思われるが、取り扱っているテーマによっては査読を敬遠されることもある。場合によっては閉鎖的な部署に所属されていたりすることもあると、査読の依頼をあきらめざるを得ないケースもある。早急なる検討をすべきである。

昨年度の課題として取り上げられた脚注や文献目録の表記法、図番の表記法などは早急に統一する必要があるものと考えられる。

「教育実践報告」は多くの場合、審査基準にさらされるのではないので、長蛇になりがちである。ページ数は6ページ以内とすることが望ましい。

本チームの更なる編集作業円滑化のために、以上の項目を今後の課題としたい。

4. 活動記録（チーム会議）

第1回 平成23年7月20日（水）

1. 座長及び副担当者の選出について
2. 平成23年度名城大学教育年報刊行に向けて

第2回 平成23年11月15日（火）

1. 平成23年度名城大学教育年報投稿について（報告）
2. 校閲委員会の在り方について
3. 教育研究論文の査読者及び教育実践報告の確認者について
4. その他
 - ・査読者及び確認者への謝礼について

第3回 平成24年1月25日（木）

1. 査読結果について
2. 結果の取り扱いについて
3. 結果通知について

大学院チーム活動報告

大学院チーム

座長 成 塚 重 弥

1. 平成23年度の活動方針

今年度の活動方針を、名城大学の大学院教育の実態把握を進めるとともに、学生の視野を広げる教育活動を実践している事例を収集・共有し、大学院教育を考える機会とすることと定めチームの活動をおこなった。大学院教育は研究科毎に大きく異なり、他研究科の様子を知る機会も極めて低い。従って、教育活動の事例を収集・共有することにより相互認識を深めるとともに、大学院教育に関する基礎的なデータを収集・共有することで大学院の全体像の把握を進める。

2. 平成23年度の活動内容

上記の活動方針の実行のため、以下の3本柱をもとに今年度の活動を進めた。

- ① 専門分野の研究以外の幅広い視野を養う、教育の側面支援に関する活動に着目し、ユニークな教育の取組をインタビューする。
- ② 大学院の教育の実態把握のための、基礎データとするためのプレアンケート（プレインタビュー）を実施する。
- ③ 大学院に関する統計データ(在籍者数、教員数、就職先等)を収集する。

ユニークな教育の取組に関するインタビューを、講義を担当する教員とその講義を受講した学生双方に対しておこない。「どのような講義をおこなっているのか（内容）」、「講義で大切にしているポイントは何か（特色）」、「学生の主体的な学びを促すために、どのような工夫をおこなったか（興味・意欲）」、「講義で学んで良かったこと役だったこと（学生の感想）」などを、インタビューすることとした。

また、プレアンケートは、大学院教育における改善ニーズの把握のための、必要な基礎的情報を収集するための予備調査として位置づけた。大学院教育の実態把握のためには、大学院生に対するヒアリングないしはアンケートをおこなうことが有効と考えられる。しかしながらこのような試みは今までに少なく、どのようなアンケートをおこなったら必要な情報が収集できるかもはっきりとしない。そこで、本年度は小規模なプレアンケートをヒアリング形式にておこない、大学院教育の実態のアウトラインを探ることとした。

大学院に関する統計データは大学教育開発センターを中心として、大学の各部門が持つ統計データを適宜収集することとした。

以上の様な活動をチームの各委員が分担し、年度末までに担当分の活動が終了し、データが収集される。

3. 平成24年度への課題

以上のように収集した大学院教育に関する基礎データをもとに、大学院教育の実態の把握を推進するとともに、さらに深く実態把握進めるためには何が必要か検討する。また、プレアンケートに基づき、大学院教育への改善要求を調査するための本アンケートの項目の検討をおこなう。さらに、インタビューにより取材した特徴ある講義、プレアンケート結果、大学院統計データ等を冊子にまとめ、読みやすい形で全学に発信してゆきたい。

4. 活動記録（チーム会議）

第1回 平成23年7月28日（木）

1. 平成23年度大学院FDチームの活動について

第2回 平成23年11月17日（木）

1. 平成23年度大学院チームの活動について
2. 「ユニークな教育事例の紹介」

第3回 平成24年1月25日（水）

1. 平成23・24年度大学院チームの活動について
2. 大学院基礎データについて

5. トピックス

第13回 FD フォーラム実施報告



11月2日(水)、天白キャンパス11号館5階504教室において、第13回FDフォーラムを開催しました。今回は、「改めてFDについて考える～組織的な取組に向けて～」をテーマとし、教職員、学生、他大学関係者等134名が参加して行われました。

はじめに、森川章FD委員長から、本フォーラムにおける報告を通して、各学部における主体的なFD活動の参考としていただきたいとの挨拶の後、肥田進ワークショップチーム座長から、再度FDの在り方について考え直すことを本フォーラムのテーマとして設定したとの趣旨説明がありました。

第1部は、「FDの義務化から3年～原点に立ち返って考える～」をテーマに、名古屋大学高等教育研究センターの中井俊樹准教授を迎え、FDの義務化から3年目の現在において、FDにおける論点を整理することにより、今後のFD活動をどのように発展させていくのかについて、講演が行われました。

その中で、活動を自主的な取り組みにどのように変えていくのか、教員の多様なFDのニーズにどのように対応するのが今後の課題であると述べられました。



第2部は、「名城大学の教育改善の取組～4つの実践例」として、名城大学で行われている教育改善の取り組みの報告がありました。



①平成22年度文部科学省「大学生の就業力育成支援事業」選定取組である「現場触発型教育・学習による就業力の育成」(発表者:経営学部 瀬川新一教授)では、少人数教育の個別指導体制が整っている4年一貫のゼミナール教育を核に経営学を体系的に学べるようにカリキュラムを再構築し、自立的な学生の就業力を育成しているとの報告がありました。

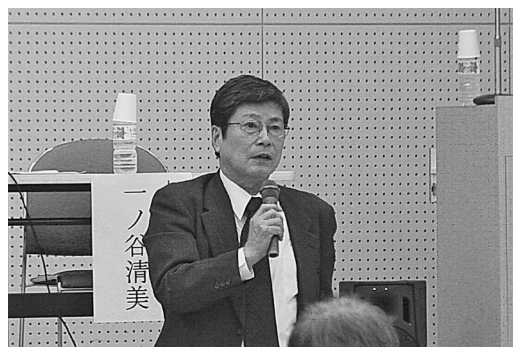
②「初年度理数基礎教育の充実と理工学ナビゲーションシステムによる理工学教育の質の保証」(発表者:理工学部 佐川雄二教授)では、学生の基礎学力低下への対応及び学習の継続性維持のため、学習カルテ・ポートフォリオとしても活用可能な、Web上で動作する理工学ナビゲーションシステムの構築を進めると共に数学や物理科目の相談室を開室しているとの報告がありました。



③「里山における生物多様性と化学的環境評価による実践的生物環境教育」(発表者:農学部 新妻靖章准教授)では、自然環境の豊かさを生物多様性という指標を通して深く理解し、環境及び環境教育の分野において活躍できる人材を育成することを目的として、里山における生物環境実習と化学的手法による環境調査を実施しているとの報告がありました。

④「英語実践力向上のための自律学習システム運営」(発表者：人間学部 一ノ谷清美教授)では、MiLC(名城大学自律学習センター)を設置し、課外活動においてもネイティブスピーカーによる英語のレッスンを通じて、身近に、気軽に、英語に触れることのできる環境を整えているとの報告がありました。

その後、武田直仁 FD 委員をコーディネーターとし、第2部各発表者及び宮嶋秀光大学教育開発センター長によるディスカッションが行われました。



最後に、中根敏晴学長から、各学部・研究科の取組を軸に全学の教育改善につなげていきたいとの纏めをもって、第13回 FD フォーラムを終了しました。

参加者アンケートからは、教育改善に対する継続した大学への支援を求める要望が多く、名城大学の教育の在り方を考える意義深い機会となりました。

第13回 FDフォーラム

改めてFDについて考える

～組織的な取組に向けて～

参加費、事前申込みは不要です。
多数のご参加をお待ちしています。

日程
平成23年
11月2日(水)
14:00～16:50

会場
名城大学 天白キャンパス
11号館5階 504特別教室

名城大学

プログラム

●開会挨拶・趣旨説明 (14:00～14:10)

●第1部
基調講演 (14:10～15:10)
「FDの義務化から3年
～原点に立ち返って考える～」
中井 俊樹 准教授
(名古屋大学 高等教育研究センター)

●第2部
名城大学の教育改善の取組
～4つの実践事例～ (15:20～16:40)

- 1) 現場触発型教育・学習による就業力の育成(経営学部)
[平成22年度文部科学省「大学生の就業力育成支援事業」選定取組]
- 2) 初年度数理基礎教育の充実と理工学ナビゲーションシステムによる理工学教育の質の保証(理工学部)
- 3) 里山における生物多様性と化学的環境評価による実践的生物環境教育(農学部)
- 4) 英語実践力向上のための自律学習システム運営(人間学部)
[平成23年度名城大学「教育の質保証プロジェクト」選定取組]
- 5) パネルディスカッション

●閉会挨拶等 (16:40～16:50)

お問い合わせ 名城大学 大学教育開発センター
〒468-8502 名古屋市中区天白1-501
TEL: 052-853-2033
E-mail: edcenter@ccmail.meiyo-u.ac.jp

主催：名城大学FD委員会・大学教育開発センター

平成23年度 第13回FDフォーラム プログラム
『改めてFDについて考える～組織的な取組に向けて～』

開会挨拶 FD委員長 森川 章

第1部 基調講演
「FDの義務化から3年 ～原点に立ち返って考える～」
名古屋大学高等教育研究センター 中井俊樹 准教授

- 第2部 名城大学の教育改善の取組 ～4つの実践事例～
- 1) 現場触発型教育・学習による就業力の育成
経営学部 瀬川新一教授
(平成22年度文部科学省「大学生の就業力育成支援事業」選定取組)
 - 2) 初年度数理基礎教育の充実と理工学ナビゲーションシステムによる理工学教育の質の保証
理工学部 佐川雄二教授
 - 3) 里山における生物多様性と化学的環境評価による実践的生物環境教育
農学部 新妻靖章准教授
 - 4) 英語実践力向上のための自律学習システム運営
人間学部 一ノ谷清美教授
(2～4)平成23年度名城大学「教育の質保証プロジェクト」選定取組
 - 5) パネルディスカッション

閉会挨拶 学長 中根敏晴

第13回 FD フォーラム 所属別参加状況

	所属人数 (※1)	F D フォーラム		
		参加人数	参加率	前回参加人数
教育職員				
学長・副学長	3	2	66.7%	3
法学部	38	4	10.5%	3
経営学部	30	8	26.7%	8
経済学部	29	11	37.9%	24
理工学部	168	10	6.0%	24
農学部	44	8	18.2%	7
薬学部	63	9	14.3%	2
都市情報学部	26	0	0.0%	3
人間学部	21	11	52.4%	16
大学院理工学研究科	2	0	0.0%	0
大学院法務研究科	16	0	0.0%	0
総合学術研究科	1	0	0.0%	0
大学院大学・学校づくり研究科	4	0	0.0%	1
教職センター	6	1	16.7%	2
情報センター	3	2	66.7%	1
総合研究所	5	0	0.0%	0
総合数理教育センター	3	1	33.3%	0
大学教育開発センター	10	1	10.0%	1
小計 1	472	68	14.4%	105
非常勤講師 (※3)	—	2	—	1
小計 2		70		106
事務職員				
監査室	1	0	0.0%	0
秘書室	3	1	33.3%	0
経営本部	7	2	28.6%	0
MS-15推進室	—	—	—	0
大学・附属高等学校振興推進準備室	2	0	0.0%	0
総合政策部	12	3	25.0%	2
総務部	14	1	7.1%	1
財政部	15	7	46.7%	6
施設部	13	2	15.4%	0
入学センター	13	0	0.0%	3
学務センター	49	10	20.4%	2
保健センター	7	0	0.0%	0
大学教育開発センター	8	7	87.5%	7
学術研究支援センター	11	1	9.1%	2
総合研究所	1	0	0.0%	0
キャリアセンター	21	1	4.8%	2
国際交流センター	5	1	20.0%	0
情報センター	6	0	0.0%	0
附属図書館	8	1	12.5%	1
法学部	7	1	14.3%	1
経営学部	5	0	0.0%	2
経済学部	6	1	16.7%	3
理工学部	13	0	0.0%	0
農学部	18	1	5.6%	0
薬学部	11	2	18.2%	0
都市情報学部	10	1	10.0%	1
人間学部	5	2	40.0%	3
附属高校	9	0	0.0%	0
小計	280	45	16.1%	36
役員				
役員 (※2)	7	4	57.1%	4
その他				
附属高等学校教諭	93	0	0.0%	0
学部生・大学院生	—	2	—	120
その他	—	13	—	7
小計	—	15	—	127
合計	852	134	—	273

※1 平成23年度所属人数（教員…助手を含む。特任教授は含まない。／事務職員…契約職員を含む。派遣職員は含まない。）

※2 学長・副学長は除く。（教育職員「学長・副学長」に含む。）

※3 研究員含む

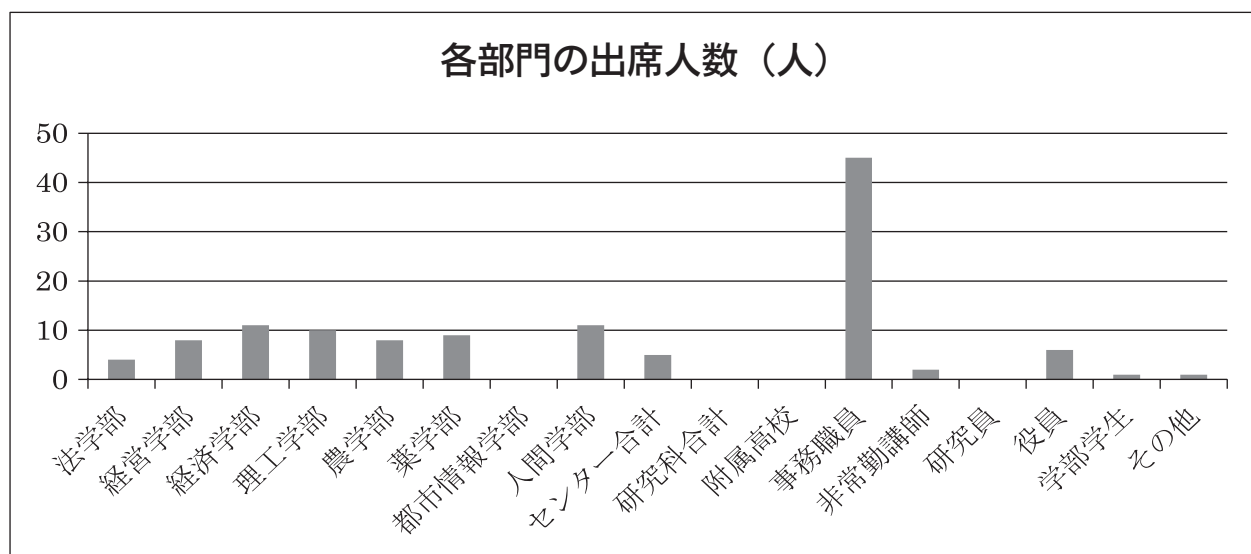
第13回 FD フォーラム 参加者アンケート集計結果

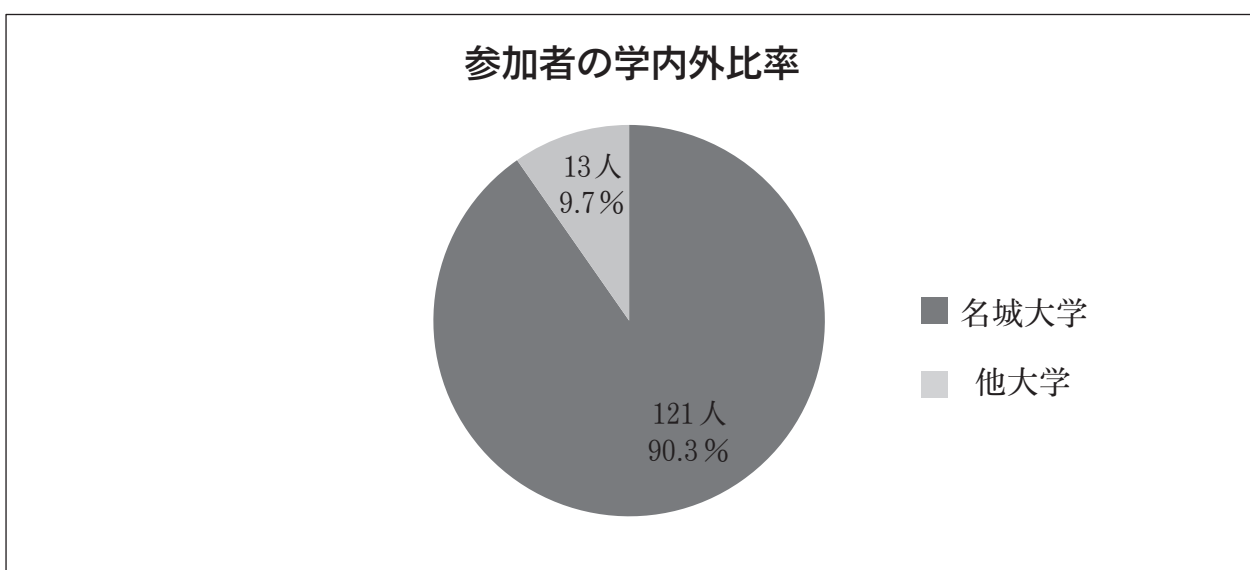
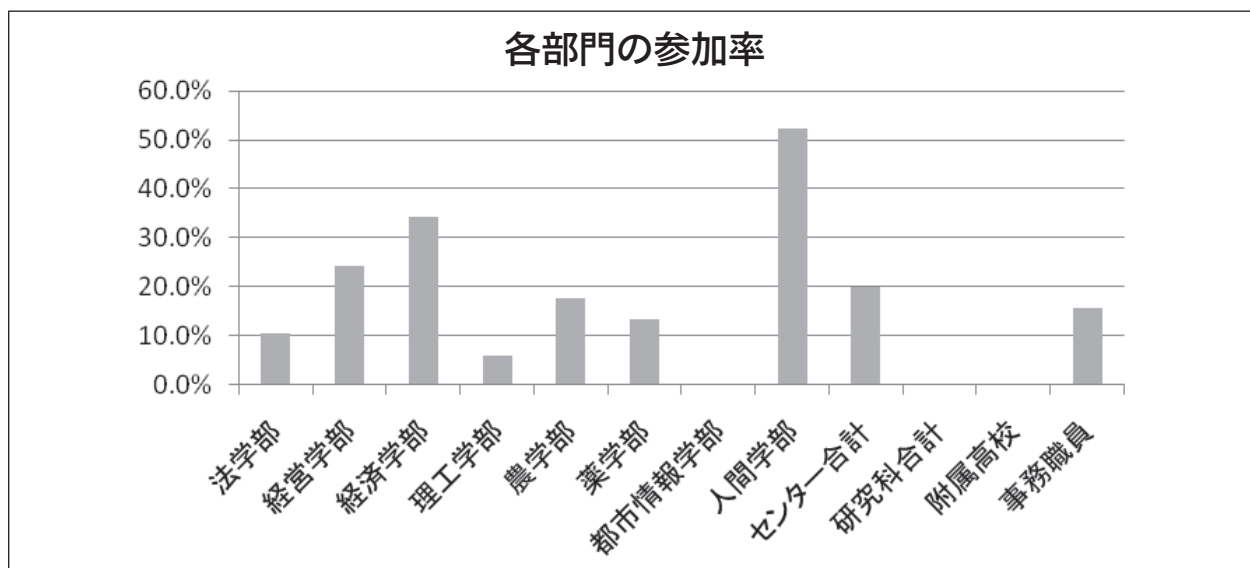
1. 参加者のデータ

① 参加者の属性（表）

所属等		出席人数 (人)	在籍者数	各部門の 参加率 (%)	参加者の 構成比率 (%)	学内外 人数 (人)	学内外 比率 (%)
名城 大学	法 学 部	4	38	10.5%	3.0%	121	90.3%
	経 営 学 部	8	33	24.2%	6.0%		
	経 済 学 部	11	32	34.4%	8.2%		
	理 工 学 部	10	171	5.8%	7.5%		
	農 学 部	8	45	17.8%	6.0%		
	薬 学 部	9	67	13.4%	6.7%		
	都市情報学部	0	27	0.0%	0.0%		
	人 間 学 部	11	21	52.4%	8.2%		
	センター合計	5	25	20.0%	3.7%		
	研究科合計	0	19	0.0%	0.0%		
	附 属 高 校	0	93	0.0%	0.0%		
	事 務 職 員	45	289	15.6%	33.6%		
	非常勤講師	2	—	—	1.5%		
	研 究 員	0	—	—	0.0%		
	役 員	6	10	—	4.5%		
	学 部 学 生	1	—	—	0.7%		
	そ の 他	1	—	—	0.7%		
他 大学	教 育 職 員	6	—	—	4.5%	13	9.7%
	事 務 職 員	6	—	—	4.5%		
	民 間 企 業	1	—	—	0.7%		
	研 究 員	0	—	—	0.0%		
	役 員	0	—	—	0.0%		
計		134			100.0%	134	100.0%

② 参加者の属性（グラフ）





2. アンケートデータ

① アンケート回答者の属性（表）

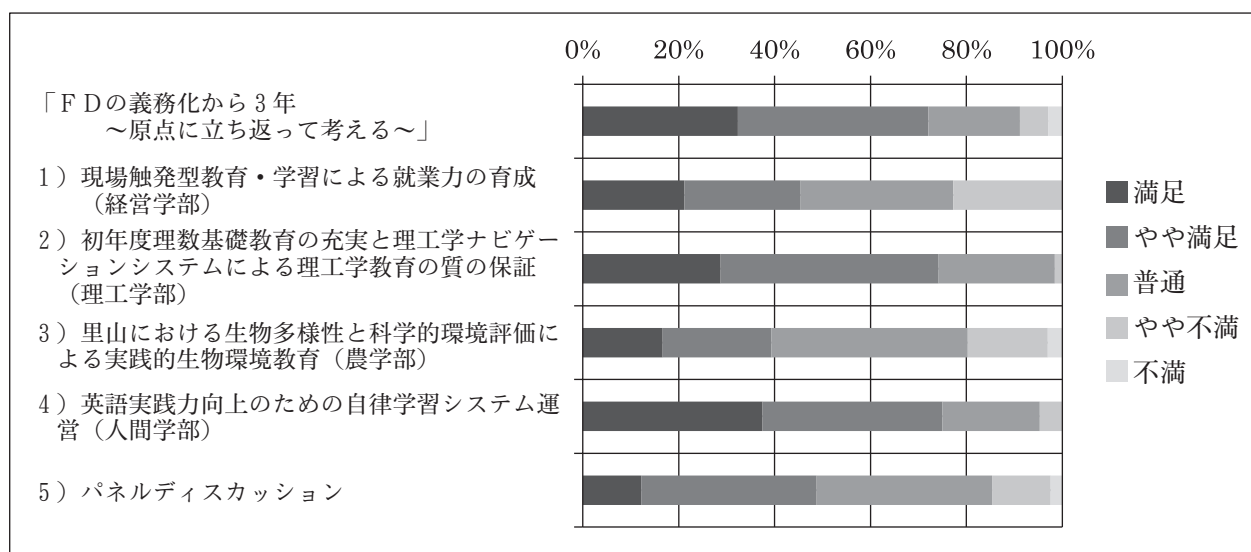
所属等		回答者数（人）
名城大学	専任職員	32
	非常勤講師	1
	職員	21
	大学院生	1
	学部学生	0
	その他	1
他大学	教員	6
	職員	4
高等学校	教員	0
	職員	1
その他		0
計		67

② 各プログラムの満足度（表）

セッション	各項目の回答者数（人）					計 （人）
	満足	やや満足	普通	やや不満	不満	
「FDの義務化から3年 ～原点に立ち返って考える～」	22	27	13	4	2	68
1）現場触発型教育・学習による就業力の育成 （経営学部）	14	16	21	15	0	66
2）初年度理数基礎教育の充実と理工学ナビゲーションシステムによる理工学教育の質の保証 （理工学部）	19	30	16	1	0	66
3）里山における生物多様性と科学的環境評価による実践的生物環境教育（農学部）	11	15	27	11	2	66
4）英語実践力向上のための自律学習システム運営（人間学部）	24	24	13	3	0	64
5）パネルディスカッション	5	15	15	5	1	41

（重複回答は述べ件数としてカウント、未記載はカウントせず）

③ 各プログラムの満足度（グラフ）



3. 今回のフォーラムの中で、一番関心を持ったポイント、重要だと感じたポイントについて（自由記述まとめ）

【FDの在り方】

- ・FDは権利か義務かの判断が難しい。（職員）
- ・学生の理解力から判断すると、FDの必要性を痛感する。（教員）
- ・解決策を構築している工夫は見られたが、過保護にも思えた。（教員）
- ・FDが目に見える効果がなくても続けていかなければならない。（教員）

【F Dに対する改善案】

- ・大学全体で学力やモチベーションがUPするようなシステムを考えてほしい。(職員)
- ・協同して教育の向上に取り組むことが一つアイデアと思われる。(教員)
- ・F Dに関心のない教員にF Dを受けてもらう方策。(教員)
- ・教務関係者の積極的な関与、カリキュラムと連動した議論が必要。(教員)
- ・各学部のプロジェクトをカリキュラムとして学部全体の取組みにすべき。(職員)

【大学への要望】

- ・F Dのための予算を多く取ってほしい。(教員)
- ・各学部での取組みを継続できるような予算措置を検討してほしい。(教員)

【F Dフォーラムを通じた参加者の感想】

- ・学生の意欲をどう引き出すかが重要だと感じた。(教員)
- ・気軽に楽しく授業を行うことが、学生の自律を促せると思う。(教員)
- ・日本におけるF Dは制度自体模索段階であること。(職員)
- ・全国的に共通の問題点があげられていたように感じられた。(教員)
- ・実践的な英語習得には身近に英語にたくさん触れられる環境が必要。(大学院生)
- ・内発的動機づけや発見の喜びが必要。(職員)
- ・成績の低い学生のやる気をどう出すかに関心がある。(教員)
- ・折り紙を用いた説明には説得力があり、非常に参考になった。(教員)
- ・大学全体として共通の問題があると示唆されていた。(教員)

【その他】

- ・M i L Cのような組織を学部単位で運営するパワー。(職員)
- ・どのようにニーズをまとめていくのかを考えたい。(職員)
- ・今回の内容をS Dという形でも活用してみたい。(職員)

4. 第2部の4学部の教育の改善の取組をお聞きになって、所属学部等の教育改善を進める上でヒントになったことなどあればお聞かせください。

【教育改善の必要性】

- ・学生が興味を引く内容を知る必要性。(教員)
- ・初年次での動機づけの必要性。(教員)
- ・最終教育機関にツケが回ってきている厳しい現状。(教員)

【教育改善の方法】

- ・学生の実態を理解し、教員組織として共有すること。(教員)
- ・学生に目標意識をしっかりと持たせること。(教員)
- ・学生への情報提供の方策(理工学部の取組)。(教員)
- ・1年次からゼミを必修にしていること。(教員)
- ・F Dに関連した資料を事前に調査・提供できるようにしたいと思った。(職員)

【その他】

- ・外部から見学に来た人向けの内容になっていない。(他大学教員)
- ・他学部システムを取り入れたい際はどうか。(教員)

5. FDフォーラムで取り扱ってほしいテーマや企画内容等について、ご意見・ご要望がございましたら下記にご記入ください。

【学びに対する動きづけ】

- ・動機づけについてより深い企画を実施してほしい。(職員)
- ・成績が良くない学生の学力やモチベーションを上げる取組。(職員)
- ・専門分野を学び始めた学生のモチベーションをいかにあげるか。(教員)

【教え方】

- ・基礎数学(算数)の教え方。(教員)
- ・学習ポートフォリオの成果の有無について。(職員)
- ・優秀教員の方にご自身のFDについて発表していただきたい。(職員)

【本学の教育改善取組等の取組等】

- ・名城大学の初年次教育のシステムについて。(教員)
- ・各学部の初年次教育について議論する。(教員)
- ・中途退学者の実態について。(教員)

【他大学等事例の報告】

- ・名城大学で展開されていない他大学での取組。(職員)
- ・文部科学省としてどうとらえられているのか施策的な観点からの話。(教員)

第 13 回FDフォーラムアンケート 平成23年11月2日(水)

本日は第 13 回FD フォーラムにご参加いただきありがとうございました。
 今後のフォーラムの企画をはじめ、FD 活動の取り組みにおいて参考になるご意見をいただきたいと思いますので、本アンケートにご回答くださいますようご協力をお願いいたします。いただきましたアンケートのご意見は、今後の取り組みの参考にさせていただきます。ご記入後は受付に回収箱を用意していますので、退出の際にお入れください。

1. あなたについてお聞かせください。(該当するものに○をつけてください)

【名城大学】 1.専任教員 2.非常勤講師 3.職員 4.大学院生 5.学部学生 6.その他 ()
 【他 大 学】 7.教員 8.職員
 【高等学校】 9.教員 10.職員
 【そ の 他】 11.その他 ()

2. 本日の企画内容についてお聞かせください。

プログラム名	該当するものに○を付けてください。				
第 1 部 基調講演 『FDの義務化から3年 ～原点に立ち返って考える』	1.満足	2.やや満足	3.普通	4.やや不満	5.不満
第 2 部 名城大学の教育改善の取組 ～4つの実践例～					
1) 現場触発型教育・学習による就業力の育成 (経営学部)	1.満足	2.やや満足	3.普通	4.やや不満	5.不満
2) 初年度理数基礎教育の充実と理工学ナビゲーションシステムによる理工学教育の質の保証(理工学部)	1.満足	2.やや満足	3.普通	4.やや不満	5.不満
3) 里山における生物多様性と化学的環境評価による実践的生物環境教育(農学部)	1.満足	2.やや満足	3.普通	4.やや不満	5.不満
4) 英語実践力向上のための自律学習システム運営(人間学部)	1.満足	2.やや満足	3.普通	4.やや不満	5.不満
5) パネルディスカッション	1.満足	2.やや満足	3.普通	4.やや不満	5.不満

3. 今回のフォーラムの中で、一番関心を持ったポイント、重要だと感じたポイントについて、具体的にお聞かせください。

当日配布資料

基調講演「FDの義務化から3年 ～原点に立ち返って考える～」

名古屋大学高等教育研究センター 中井 俊樹 准教授

1

FDの義務化から3年 原点に立ち返って考える

2011年11月2日
名古屋大学高等教育研究センター
中井俊樹

2

話題提供の目的

- FDの義務化から3年目の現在において、FDにおける論点を整理し、今後FDをどのように発展させていくのかを議論するきっかけを提供したい

3

主な構成

- イントロダクション
- FD義務化までの経緯
- 大学教員から見たFD
- さまざまな形態のFD
- 今後のFDのための課題

4

課題:紙工作

- 名古屋大学新任教員研修の一コマ
- 配布された黄色の紙を使って、指示にしたがって工作をしてください。ただし、質問はしないでください。

5

紙工作

- お手元の黄色い紙を用意してください。
- 紙を半分に折って右上を斜めに折ってください。
- そして、その折り曲げた部分を切り取ってください。
- また、紙を半分に折って右上を斜めに折ってください。
- そして、その折り曲げた部分をまた切り取ってください。
- もう一度、紙を半分に折って右上を斜めに折ってください。
- そして、その折り曲げた部分をまた切り取ってください。
- それでは残った紙を広げてください。

6

できました？



7

えっ、全員蝶々を完成できていない？

- パワーポイントを使って熱意をもって伝えたはずなのに？
- 全員ができなかった原因は？



8

蝶々が完成するために

- うまくいかなかった原因
 - ・ 目標を伝えていなかった
 - ・ 最終成果を見せてなかった
 - ・ 説明があいまいだった
 - ・ 一方的に説明し、質問を受け付けなかった
 - ・ 作業のプロセスをチェックしなかった
 - ・ メディアをうまく利用していなかった
- これは私たちの授業にもあてはまる？
 - ・ 自分の知っていること、できることを教えるのは難しい
 - ・ 教えるための道具も単に使えようまくわけではない
 - ・ ノウハウを共有することは大事

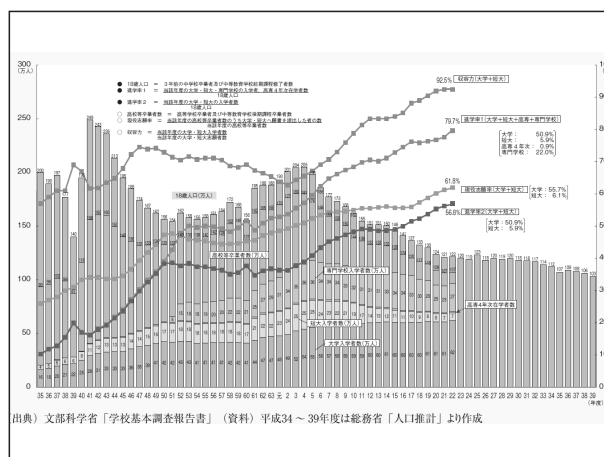
9

エリート型・マス型・ユニバーサル型

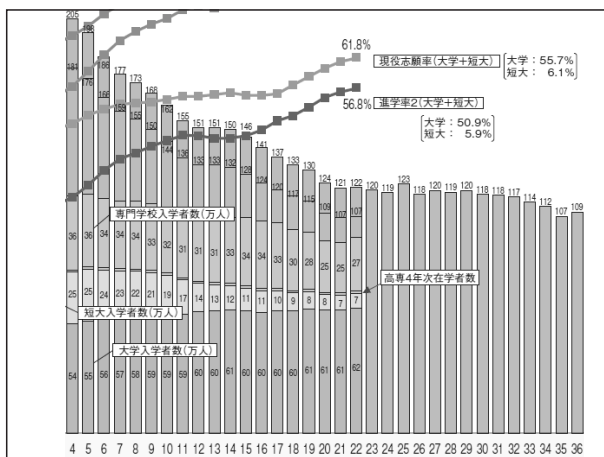
システムの段階	エリート型	マス型	ユニバーサル型
該当年齢人口に占める在籍率	15%まで	15%～50%まで	50%以上
高等教育の機会	少数者の特権	多数の権利	万人の義務
日本の大学・短大	1962年以前	1963年から2004年	2005年以降

M. トロウ (1976)『高学歴社会の大学』を参考に作成

10



11



12

権利と義務

- 勤労の権利と義務
- 義務教育と教育を受ける権利
- FDは教員の義務なのか、権利なのか
- 外発的動機づけと内発的動機づけ
 - ・ ○○さんに怒られるから。規則で決まっているから
 - ・ 大事だと思うから。おもしろそうだから

13

主な構成

- イントロダクション
- FD義務化までの経緯
- 大学教員から見たFD
- さまざまな形態のFD
- 今後のFDのための課題

14

アメリカにおけるFDの起源

- 1970年代にFDの概念と活動が発展したと言われる
 - ・ 1962年 ミシガン大学学習教授センターの設置
 - ・ 1976年 FDの専門学会であるPODが設立
- 1970年代のアメリカの大学
 - ・ 学生運動による教育改革への要望
 - ・ 学生数の減少、教員ポストの縮小
 - ・ テニユアの獲得の困難性
 - ・ 学生の質的低下と多様性
 - ・ 新しい教育方法の登場
 - ・ 教育内容の学際化
 - ・ 財政削減
 - ・ アカウンタビリティの要請

15

大学教授職の使命

- 発見の学識 (scholarship of discover)
 - ・ 「何を発見するのか？」
- 統合の学識 (scholarship of integration)
 - ・ 「研究成果はどのような意味をもつか」
- 応用の学識 (scholarship of application)
 - ・ 「知識をどのように応用できるか」
- 教育の学識 (scholarship of teaching)
 - ・ 「知識をどのように継承するか」

Boyer(1990)

16

日本のFDの簡単な歴史

1985年 一般教育学会(現在の大学教育学会)の課題研究の対象としてFDが取り上げられる
 1991年 大学審議会答申「大学教育の改善について」でFDという用語が使用される
 1999年 大学設置基準によるFDの努力義務化
 2000年 名城大学FDフォーラムの開始
 2003年 名城大学大学教育開発センターの設置
 2004年 認証評価制度の開始
 2006年 教育基本法に教員の研究と修養に関する規定
 2007年 大学院設置基準によるFDの義務化
 2008年 大学設置基準によるFDの義務化

17

なぜ近年になってFDか？

- FDの制度化が遅れた理由
 - ・ 日本の大学や教員は研究中心であった
 - ・ 教員評価も研究中心であった
 - ・ 強い外圧が存在しなかった
- 近年FDが促進される理由
 - ・ 政府による促進政策
 - ・ 18歳人口の遡減による伝統的學生数の減少
 - ・ 大衆化による學生の学習力や学力の多様化
 - ・ 大学の教育力の低下に対する社会批判の高まり
 - ・ 世界的な高等教育の質的保証に関する競争の激化

有本(2005)

18



名古屋大学職員組合の「組合加入のすすめ」のビラ

19

大学設置基準の中のFD

- 「大学は、当該大学の授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする」(大学設置基準第25条の3)
- 特徴
 - ・ FDや義務という用語はない
 - ・ 実施の主体は大学
 - ・ 授業の内容及び方法の改善
 - ・ 組織的な活動
 - ・ 研修及び研究

20

審議会が指摘するFDの課題1

- 一方向的な講義にとどまり、教員のニーズに応じた実践的な内容になっておらず、教員の日常的な教育改善の努力を促進・支援するに至っていない
- 教員相互の評価、授業参観など、ピアレビューの評価文化が付いていない
- 教育面の業績評価などが不十分であり、教育力向上のためのインセンティブが働きにくい
- 教学経営のPDCAサイクルの中にFDの活動を位置付け、教育理念の共有や見直しに生かす仕組みづくりと運用がなされていない

中央教育審議会(2008)「学士課程教育の構築に向けて」

21

審議会が指摘するFDの課題2

- 大学教育センターなどFDの実施体制が脆弱である。FDに関する専門的人材が不足している、学内で各学部の協力を得る上で困難がある
- 学協会による分野別の質保証の仕組みが未発達であり、分野別FDを展開する基盤が十分に形成されていない
- 非常勤教員や実務家教員への依存度が高まる一方で、それらの教員の職能開発には十分目が向けられていない

22

審議会が示すFDの方向性

- 制度化されたFDを実質化する
- 単なる授業改善のための研修と狭く解するのではなく、教員団の職能開発として幅広く捉える
- FDを実質化するには、教員の自主的・自律的な取組が不可欠である
- 教員の個人的・集団的な日常的教育改善の努力を促進・支援し、多様なアプローチを組織的に進める
- 教員の専門性を明確化し評価体制を確立する
- 大学院における大学教員養成機能を充実する

23

FDの制度に関する論点

- 制度化自体の問題
 - ・ 職業倫理に基づく教員の自立的活動としてのFDの発展を阻害しないか
- 授業の内容及び方法の改善という狭義のFDでよいのか
 - ・ 教員の全面的な発達を目指す広義のFD観は国内外で見られる

24

主な構成

- イントロダクション
- FD義務化までの経緯
- 大学教員から見たFD
- さまざまな形態のFD
- 今後のFDのための課題

25

教員から見たFDの阻害要因

- 他者から指示されることは本能的に嫌い
 - ・ 学問の自由を希求する主体的立場に由来するのか、単なるエゴなのかの区別は難しい(絹川、2004)
- 研究優先主義が強い
- 教育活動が十分に評価されない
- 担当授業が多すぎて授業改善は困難
- 大学がバックアップしていない
- 質の高いFDを受講したことがない

26

教員にとってのFDの意義

- 教授法についてあまり学ばずに大学教員になる場合が多い
 - ・ 10年間は不安を感じながら授業を行っているという調査結果
 - ・ より満足ができやりがいのある楽しい授業にしたい
- 教育と研究の関係も気になる
 - ・ 教授法の基本を習得し、授業を効率的に
 - ・ 昇進や転職に教育能力の証明を求められる傾向に
 - ・ そもそも知の創造と継承は密接に関連している。研究成果だけでなく研究のプロセスを教えることも重要

27

近年の大学教員職の変化

- 職の不安定化、キャリアの不透明化
 - ・ 人件費の削減(特に国公立)
 - ・ 任期制の導入
 - ・ 博士課程修了者、ポスドクの増大
- 研修を望む層の増加
 - ・ 若手教員、実務家教員、大学教員を目指す大学院生の中に研修を主体的に希望する者が一定の割合でいる

28

主な構成

- イントロダクション
- FD義務化までの経緯
- 大学教員から見たFD
- さまざまな形態のFD
- 今後のFDのための課題

29

さまざまな形態のFD

- 講演会、ワークショップ
- 研究会
- 個々の教員への支援
- 授業公開・授業見学
- 授業評価アンケート
- FD教材の開発と活用
- 自己研修支援

30

講演会、ワークショップ

- 教員全体対象
 - ・ 教員全体に関わる内容の研修に適している(GPA導入、授業時震災対応)、主催者はテーマの選定が難しい場合も
- 部局やその下位の単位の教員対象
 - ・ 議論しやすい規模で教育内容にまで踏み込んだ研修が可能、実践事例の紹介もやりやすい、教授会前後に実施する場合も
- キャリア段階別
 - ・ 新任教員などキャリア段階別の研修、毎年別の教員を対象に実施するので内容は標準化可能
- 個別ニーズ別
 - ・ 個別のニーズに対応した研修、「クリッカーを授業で活用したい」、「英語で教えたい」や「障害をもった学生の対応を知りたい」、任意参加であれば集中的なワークショップも可能

愛媛大学全学FDマップ

フェーズ	プログラム・サービス名	目的	学習内容
フェーズⅠ (導入) 気づく・わかる	新任教員オリエンテーション (年1回)	本学の教育に関する基礎的知識を習得する。	本学の教育目標、共通教育制度、単位制度
	愛媛大学教育改善シンポジウム (年1回)	最新の教育動向から授業・カリキュラム改革に関する知識を習得する。	学内の授業・カリキュラム改革の現状と期待
フェーズⅡ (基本) 実践できる	授業デザインワークショップ (年2回)	授業デザインの基礎的知識・スキルを習得する。	アセスメント・ラーニング、シラバス作成法、多様な授業方法、学習評価法、模擬授業実施法
	FDスキルアップ講座(年13講座)	授業実践に必要な特定のスキルを向上させる。	発声法、講義法、課題解決法、授業法、メディア教科作成法
	SPD関連講座(フォーラム含む)	授業実践に必要な特定のスキルを向上させる。	発声法、講義法、課題解決法、授業法、メディア教科作成法
	授業コンパニオン(随時)	授業コンパニオンとともに実践的に学び、それにより解決策ももたらす。	授業において学生の学習を促進する授業、学習促進法、解決策ももたらす。
フェーズⅢ (応用) 開発・報告で	ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ(年3回)	教育哲学、教育方法などを体系的に整理し、その成果を文章化する。	教育哲学、教育方法、経験の振り返り
	大学教育実践ジャーナルへの論文投稿(年1回)	授業実践を研究として客観的に検証し、その成果を文章化する。	授業の客観的分野、課題解決方法

名古屋大学の標準化メニュー

■ 定番メニューの例

- 現代の大学生、シラバス設計法、大学教授法の基礎、メディアを活用した教授法、多人数授業の教授法、成績評価の方法、大学教員という職業、話すスキルを磨く、大学教員の倫理、学生に書く力をつけさせる、英語で教える方法、コーチングの技法、アウトリーチに取り組む

■ 新任教員研修や大学院生対象の大学教員準備講座などキャリア段階別研修を繰り返す教材にすることで内容を充実化

研究会

- 大学設置基準では組織的な研究もFD
 - 「大学は、当該大学の授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする」(大学設置基準第25条の3)
- 自主的な研究会を大学として支援
- 海外の大学の実践コミュニティという概念と活動

名古屋哲学教育研究会

- 「哲学を専門としない学生にどのように哲学を教えるのか？」をテーマに連続セミナー
- 学部単位より小さい学問領域でのFDが推進される
- 学会との関連性も高まる

名古屋哲学教育研究会
公開セミナー2009

哲学を専門としない学生に
どのように哲学を教えるのか？

【第1回】10月17日(土) 17:00-19:30
【第2回】10月24日(土) 17:00-19:30
【第3回】10月31日(土) 17:00-19:30
【第4回】11月7日(土) 17:00-19:30
【第5回】11月14日(土) 17:00-19:30
【第6回】11月21日(土) 17:00-19:30
【第7回】11月28日(土) 17:00-19:30
【第8回】12月5日(土) 17:00-19:30
【第9回】12月12日(土) 17:00-19:30
【第10回】12月19日(土) 17:00-19:30
【第11回】12月26日(土) 17:00-19:30
【第12回】1月2日(土) 17:00-19:30
【第13回】1月9日(土) 17:00-19:30
【第14回】1月16日(土) 17:00-19:30
【第15回】1月23日(土) 17:00-19:30
【第16回】1月30日(土) 17:00-19:30
【第17回】2月6日(土) 17:00-19:30
【第18回】2月13日(土) 17:00-19:30
【第19回】2月20日(土) 17:00-19:30
【第20回】2月27日(土) 17:00-19:30
【第21回】3月6日(土) 17:00-19:30
【第22回】3月13日(土) 17:00-19:30
【第23回】3月20日(土) 17:00-19:30
【第24回】3月27日(土) 17:00-19:30
【第25回】4月3日(土) 17:00-19:30
【第26回】4月10日(土) 17:00-19:30
【第27回】4月17日(土) 17:00-19:30
【第28回】4月24日(土) 17:00-19:30
【第29回】5月1日(土) 17:00-19:30
【第30回】5月8日(土) 17:00-19:30
【第31回】5月15日(土) 17:00-19:30
【第32回】5月22日(土) 17:00-19:30
【第33回】5月29日(土) 17:00-19:30
【第34回】6月5日(土) 17:00-19:30
【第35回】6月12日(土) 17:00-19:30
【第36回】6月19日(土) 17:00-19:30
【第37回】6月26日(土) 17:00-19:30
【第38回】7月3日(土) 17:00-19:30
【第39回】7月10日(土) 17:00-19:30
【第40回】7月17日(土) 17:00-19:30
【第41回】7月24日(土) 17:00-19:30
【第42回】7月31日(土) 17:00-19:30
【第43回】8月7日(土) 17:00-19:30
【第44回】8月14日(土) 17:00-19:30
【第45回】8月21日(土) 17:00-19:30
【第46回】8月28日(土) 17:00-19:30
【第47回】9月4日(土) 17:00-19:30
【第48回】9月11日(土) 17:00-19:30
【第49回】9月18日(土) 17:00-19:30
【第50回】9月25日(土) 17:00-19:30
【第51回】10月2日(土) 17:00-19:30
【第52回】10月9日(土) 17:00-19:30
【第53回】10月16日(土) 17:00-19:30
【第54回】10月23日(土) 17:00-19:30
【第55回】10月30日(土) 17:00-19:30
【第56回】11月6日(土) 17:00-19:30
【第57回】11月13日(土) 17:00-19:30
【第58回】11月20日(土) 17:00-19:30
【第59回】11月27日(土) 17:00-19:30
【第60回】12月4日(土) 17:00-19:30
【第61回】12月11日(土) 17:00-19:30
【第62回】12月18日(土) 17:00-19:30
【第63回】12月25日(土) 17:00-19:30
【第64回】1月1日(土) 17:00-19:30
【第65回】1月8日(土) 17:00-19:30
【第66回】1月15日(土) 17:00-19:30
【第67回】1月22日(土) 17:00-19:30
【第68回】1月29日(土) 17:00-19:30
【第69回】2月5日(土) 17:00-19:30
【第70回】2月12日(土) 17:00-19:30
【第71回】2月19日(土) 17:00-19:30
【第72回】2月26日(土) 17:00-19:30
【第73回】3月5日(土) 17:00-19:30
【第74回】3月12日(土) 17:00-19:30
【第75回】3月19日(土) 17:00-19:30
【第76回】3月26日(土) 17:00-19:30
【第77回】4月2日(土) 17:00-19:30
【第78回】4月9日(土) 17:00-19:30
【第79回】4月16日(土) 17:00-19:30
【第80回】4月23日(土) 17:00-19:30
【第81回】4月30日(土) 17:00-19:30
【第82回】5月7日(土) 17:00-19:30
【第83回】5月14日(土) 17:00-19:30
【第84回】5月21日(土) 17:00-19:30
【第85回】5月28日(土) 17:00-19:30
【第86回】6月4日(土) 17:00-19:30
【第87回】6月11日(土) 17:00-19:30
【第88回】6月18日(土) 17:00-19:30
【第89回】6月25日(土) 17:00-19:30
【第90回】7月2日(土) 17:00-19:30
【第91回】7月9日(土) 17:00-19:30
【第92回】7月16日(土) 17:00-19:30
【第93回】7月23日(土) 17:00-19:30
【第94回】7月30日(土) 17:00-19:30
【第95回】8月6日(土) 17:00-19:30
【第96回】8月13日(土) 17:00-19:30
【第97回】8月20日(土) 17:00-19:30
【第98回】8月27日(土) 17:00-19:30
【第99回】9月3日(土) 17:00-19:30
【第100回】9月10日(土) 17:00-19:30
【第101回】9月17日(土) 17:00-19:30
【第102回】9月24日(土) 17:00-19:30
【第103回】10月1日(土) 17:00-19:30
【第104回】10月8日(土) 17:00-19:30
【第105回】10月15日(土) 17:00-19:30
【第106回】10月22日(土) 17:00-19:30
【第107回】10月29日(土) 17:00-19:30
【第108回】11月5日(土) 17:00-19:30
【第109回】11月12日(土) 17:00-19:30
【第110回】11月19日(土) 17:00-19:30
【第111回】11月26日(土) 17:00-19:30
【第112回】12月3日(土) 17:00-19:30
【第113回】12月10日(土) 17:00-19:30
【第114回】12月17日(土) 17:00-19:30
【第115回】12月24日(土) 17:00-19:30
【第116回】12月31日(土) 17:00-19:30
【第117回】1月7日(土) 17:00-19:30
【第118回】1月14日(土) 17:00-19:30
【第119回】1月21日(土) 17:00-19:30
【第120回】1月28日(土) 17:00-19:30
【第121回】2月4日(土) 17:00-19:30
【第122回】2月11日(土) 17:00-19:30
【第123回】2月18日(土) 17:00-19:30
【第124回】2月25日(土) 17:00-19:30
【第125回】3月4日(土) 17:00-19:30
【第126回】3月11日(土) 17:00-19:30
【第127回】3月18日(土) 17:00-19:30
【第128回】3月25日(土) 17:00-19:30
【第129回】4月1日(土) 17:00-19:30
【第130回】4月8日(土) 17:00-19:30
【第131回】4月15日(土) 17:00-19:30
【第132回】4月22日(土) 17:00-19:30
【第133回】4月29日(土) 17:00-19:30
【第134回】5月6日(土) 17:00-19:30
【第135回】5月13日(土) 17:00-19:30
【第136回】5月20日(土) 17:00-19:30
【第137回】5月27日(土) 17:00-19:30
【第138回】6月3日(土) 17:00-19:30
【第139回】6月10日(土) 17:00-19:30
【第140回】6月17日(土) 17:00-19:30
【第141回】6月24日(土) 17:00-19:30
【第142回】7月1日(土) 17:00-19:30
【第143回】7月8日(土) 17:00-19:30
【第144回】7月15日(土) 17:00-19:30
【第145回】7月22日(土) 17:00-19:30
【第146回】7月29日(土) 17:00-19:30
【第147回】8月5日(土) 17:00-19:30
【第148回】8月12日(土) 17:00-19:30
【第149回】8月19日(土) 17:00-19:30
【第150回】8月26日(土) 17:00-19:30
【第151回】9月2日(土) 17:00-19:30
【第152回】9月9日(土) 17:00-19:30
【第153回】9月16日(土) 17:00-19:30
【第154回】9月23日(土) 17:00-19:30
【第155回】9月30日(土) 17:00-19:30
【第156回】10月7日(土) 17:00-19:30
【第157回】10月14日(土) 17:00-19:30
【第158回】10月21日(土) 17:00-19:30
【第159回】10月28日(土) 17:00-19:30
【第160回】11月4日(土) 17:00-19:30
【第161回】11月11日(土) 17:00-19:30
【第162回】11月18日(土) 17:00-19:30
【第163回】11月25日(土) 17:00-19:30
【第164回】12月2日(土) 17:00-19:30
【第165回】12月9日(土) 17:00-19:30
【第166回】12月16日(土) 17:00-19:30
【第167回】12月23日(土) 17:00-19:30
【第168回】12月30日(土) 17:00-19:30
【第169回】1月6日(土) 17:00-19:30
【第170回】1月13日(土) 17:00-19:30
【第171回】1月20日(土) 17:00-19:30
【第172回】1月27日(土) 17:00-19:30
【第173回】2月3日(土) 17:00-19:30
【第174回】2月10日(土) 17:00-19:30
【第175回】2月17日(土) 17:00-19:30
【第176回】2月24日(土) 17:00-19:30
【第177回】3月2日(土) 17:00-19:30
【第178回】3月9日(土) 17:00-19:30
【第179回】3月16日(土) 17:00-19:30
【第180回】3月23日(土) 17:00-19:30
【第181回】3月30日(土) 17:00-19:30
【第182回】4月6日(土) 17:00-19:30
【第183回】4月13日(土) 17:00-19:30
【第184回】4月20日(土) 17:00-19:30
【第185回】4月27日(土) 17:00-19:30
【第186回】5月4日(土) 17:00-19:30
【第187回】5月11日(土) 17:00-19:30
【第188回】5月18日(土) 17:00-19:30
【第189回】5月25日(土) 17:00-19:30
【第190回】6月1日(土) 17:00-19:30
【第191回】6月8日(土) 17:00-19:30
【第192回】6月15日(土) 17:00-19:30
【第193回】6月22日(土) 17:00-19:30
【第194回】6月29日(土) 17:00-19:30
【第195回】7月6日(土) 17:00-19:30
【第196回】7月13日(土) 17:00-19:30
【第197回】7月20日(土) 17:00-19:30
【第198回】7月27日(土) 17:00-19:30
【第199回】8月3日(土) 17:00-19:30
【第200回】8月10日(土) 17:00-19:30
【第201回】8月17日(土) 17:00-19:30
【第202回】8月24日(土) 17:00-19:30
【第203回】8月31日(土) 17:00-19:30
【第204回】9月7日(土) 17:00-19:30
【第205回】9月14日(土) 17:00-19:30
【第206回】9月21日(土) 17:00-19:30
【第207回】9月28日(土) 17:00-19:30
【第208回】10月5日(土) 17:00-19:30
【第209回】10月12日(土) 17:00-19:30
【第210回】10月19日(土) 17:00-19:30
【第211回】10月26日(土) 17:00-19:30
【第212回】11月2日(土) 17:00-19:30
【第213回】11月9日(土) 17:00-19:30
【第214回】11月16日(土) 17:00-19:30
【第215回】11月23日(土) 17:00-19:30
【第216回】11月30日(土) 17:00-19:30
【第217回】12月7日(土) 17:00-19:30
【第218回】12月14日(土) 17:00-19:30
【第219回】12月21日(土) 17:00-19:30
【第220回】12月28日(土) 17:00-19:30
【第221回】1月4日(土) 17:00-19:30
【第222回】1月11日(土) 17:00-19:30
【第223回】1月18日(土) 17:00-19:30
【第224回】1月25日(土) 17:00-19:30
【第225回】2月1日(土) 17:00-19:30
【第226回】2月8日(土) 17:00-19:30
【第227回】2月15日(土) 17:00-19:30
【第228回】2月22日(土) 17:00-19:30
【第229回】2月29日(土) 17:00-19:30
【第230回】3月6日(土) 17:00-19:30
【第231回】3月13日(土) 17:00-19:30
【第232回】3月20日(土) 17:00-19:30
【第233回】3月27日(土) 17:00-19:30
【第234回】4月3日(土) 17:00-19:30
【第235回】4月10日(土) 17:00-19:30
【第236回】4月17日(土) 17:00-19:30
【第237回】4月24日(土) 17:00-19:30
【第238回】5月1日(土) 17:00-19:30
【第239回】5月8日(土) 17:00-19:30
【第240回】5月15日(土) 17:00-19:30
【第241回】5月22日(土) 17:00-19:30
【第242回】5月29日(土) 17:00-19:30
【第243回】6月5日(土) 17:00-19:30
【第244回】6月12日(土) 17:00-19:30
【第245回】6月19日(土) 17:00-19:30
【第246回】6月26日(土) 17:00-19:30
【第247回】7月3日(土) 17:00-19:30
【第248回】7月10日(土) 17:00-19:30
【第249回】7月17日(土) 17:00-19:30
【第250回】7月24日(土) 17:00-19:30
【第251回】7月31日(土) 17:00-19:30
【第252回】8月7日(土) 17:00-19:30
【第253回】8月14日(土) 17:00-19:30
【第254回】8月21日(土) 17:00-19:30
【第255回】8月28日(土) 17:00-19:30
【第256回】9月4日(土) 17:00-19:30
【第257回】9月11日(土) 17:00-19:30
【第258回】9月18日(土) 17:00-19:30
【第259回】9月25日(土) 17:00-19:30
【第260回】10月2日(土) 17:00-19:30
【第261回】10月9日(土) 17:00-19:30
【第262回】10月16日(土) 17:00-19:30
【第263回】10月23日(土) 17:00-19:30
【第264回】10月30日(土) 17:00-19:30
【第265回】11月6日(土) 17:00-19:30
【第266回】11月13日(土) 17:00-19:30
【第267回】11月20日(土) 17:00-19:30
【第268回】11月27日(土) 17:00-19:30
【第269回】12月4日(土) 17:00-19:30
【第270回】12月11日(土) 17:00-19:30
【第271回】12月18日(土) 17:00-19:30
【第272回】12月25日(土) 17:00-19:30
【第273回】1月1日(土) 17:00-19:30
【第274回】1月8日(土) 17:00-19:30
【第275回】1月15日(土) 17:00-19:30
【第276回】1月22日(土) 17:00-19:30
【第277回】1月29日(土) 17:00-19:30
【第278回】2月5日(土) 17:00-19:30
【第279回】2月12日(土) 17:00-19:30
【第280回】2月19日(土) 17:00-19:30
【第281回】2月26日(土) 17:00-19:30
【第282回】3月5日(土) 17:00-19:30
【第283回】3月12日(土) 17:00-19:30
【第284回】3月19日(土) 17:00-19:30
【第285回】3月26日(土) 17:00-19:30
【第286回】4月2日(土) 17:00-19:30
【第287回】4月9日(土) 17:00-19:30
【第288回】4月16日(土) 17:00-19:30
【第289回】4月23日(土) 17:00-19:30
【第290回】4月30日(土) 17:00-19:30
【第291回】5月7日(土) 17:00-19:30
【第292回】5月14日(土) 17:00-19:30
【第293回】5月21日(土) 17:00-19:30
【第294回】5月28日(土) 17:00-19:30
【第295回】6月4日(土) 17:00-19:30
【第296回】6月11日(土) 17:00-19:30
【第297回】6月18日(土) 17:00-19:30
【第298回】6月25日(土) 17:00-19:30
【第299回】7月2日(土) 17:00-19:30
【第300回】7月9日(土) 17:00-19:30
【第301回】7月16日(土) 17:00-19:30
【第302回】7月23日(土) 17:00-19:30
【第303回】7月30日(土) 17:00-19:30
【第304回】8月6日(土) 17:00-19:30
【第305回】8月13日(土) 17:00-19:30
【第306回】8月20日(土) 17:00-19:30
【第307回】8月27日(土) 17:00-19:30
【第308回】9月3日(土) 17:00-19:30
【第309回】9月10日(土) 17:00-19:30
【第310回】9月17日(土) 17:00-19:30
【第311回】9月24日(土) 17:00-19:30
【第312回】9月30日(土) 17:00-19:30
【第313回】10月7日(土) 17:00-19:30
【第314回】10月14日(土) 17:00-19:30
【第315回】10月21日(土) 17:00-19:30
【第316回】10月28日(土) 17:00-19:30
【第317回】11月4日(土) 17:00-19:30
【第318回】11月11日(土) 17:00-19:30
【第319回】11月18日(土) 17:00-19:30
【第320回】11月25日(土) 17:00-19:30
【第321回】12月2日(土) 17:00-19:30
【第322回】12月9日(土) 17:00-19:30
【第323回】12月16日(土) 17:00-19:30
【第324回】12月23日(土) 17:00-19:30
【第325回】12月30日(土) 17:00-19:30
【第326回】1月6日(土) 17:00-19:30
【第327回】1月13日(土) 17:00-19:30
【第328回】1月20日(土) 17:00-19:30
【第329回】1月27日(土) 17:00-19:30
【第330回】2月3日(土) 17:00-19:30
【第331回】2月10日(土) 17:00-19:30
【第332回】2月17日(土) 17:00-19:30
【第333回】2月24日(土) 17:00-19:30
【第334回】3月2日(土) 17:00-19:30
【第335回】3月9日(土) 17:00-19:30
【第336回】3月16日(土) 17:00-19:30
【第337回】3月23日(土) 17:00-19:30
【第338回】3月30日(土) 17:00-19:30
【第339回】4月6日(土) 17:00-19:30
【第340回】4月13日(土) 17:00-19:30
【第341回】4月20日(土) 17:00-19:30
【第342回】4月27日(土) 17:00-19:30
【第343回】5月4日(土) 17:00-19:30
【第344回】5月11日(土) 17:00-19:30
【第345回】5月18日(土) 17:00-19:30
【第346回】5月25日(土) 17:00-19:30
【第347回】6月1日(土) 17:00-19:30
【第348回】6月8日(土) 17:00-19:30
【第349回】6月15日(土) 17:00-19:30
【第350回】6月22日(土) 17:00-19:30
【第351回】6月29日(土) 17:00-19:30
【第352回】7月6日(土) 17:00-19:30
【第353回】7月13日(土) 17:00-19:30
【第354回】7月20日(土) 17:00-19:30
【第355回】7月27日(土) 17:00-19:30
【第356回】8月3日(土) 17:00-19:30
【第357回】8月10日(土) 17:00-19:30
【第358回】8月17日(土) 17:00-19:30
【第359回】8月24日(土) 17:00-19:30
【第360回】8月31日(土) 17:00-19:30
【第361回】9月7日(土) 17:00-19:30
【第362回】9月14日(土) 17:00-19:30
【第363回】9月21日(土) 17:00-19:30
【第364回】9月28日(土) 17:00-19:30
【第365回】10月5日(土) 17:00-19:30
【第366回】10月12日(土) 17:00-19:30
【第367回】10月19日(土) 17:00-19:30
【第368回】10月26日(土) 17:00-19:30
【第369回】11月2日(土) 17:00-19:30
【第370回】11月9日(土) 17:00-19:30
【第371回】11月16日(土) 17:00-19:30
【第372回】11月23日(土) 17:00-19:30
【第373回】11月30日(土) 17:00-19:30
【第374回】12月7日(土) 17:00-19:30
【第375回】12月14日(土) 17:00-19:30
【第376回】12月21日(土) 17:00-19:30

37

名古屋大学教員メンタープログラム

- メンティ教員(新任)に期待される効果
 - ・ 職務や生活に関して気軽に相談できる相手を得る
 - ・ 大学について理解を深める
 - ・ 教育研究など職務上必要な知識やスキルを獲得する
 - ・ キャリアの展望を考えるきっかけになる
 - ・ メンター教員を介してさまざまなネットワークを作る
- メンター教員(先輩)にとっての意義
 - ・ 新任教員との交流によって新しいアイデアや活力が得られたり、自らの教育研究を振り返り今後のキャリアを考えるきっかけになる。

38

名古屋大学に着任して3年未満の教員
メンター教員との交流を通して、
大学教員として成長することが期待されます。



名古屋大学に5年以上勤務している教員
メンター活動をリードし、メンティ教員に対して理解者や
支援者としての役割を担うことが期待されます。

39

FD教材開発と活用

- FD教材の開発プロセスに関わることも、貴重な研修の機会
- 教材にする過程で内容の洗練化
- フィードバックをふまえた段階的发展
 - ・ プリント教材、簡易製本、書籍と発展する場合も
- 集合研修への活用
- 時間と場所を選ばない自己研修への活用

40

開発物の例



41

物理学講義実験研究会



42

名古屋経済学教育研究会



九州大学教員ハンドブック



主な構成

- イントロダクション
- FD義務化までの経緯
- 大学教員から見たFD
- さまざまな形態のFD
- 今後のFDのための課題

自主的な取り組みにできるか

- 答申の指摘する「教員の自主的・自律的な取組」にどう変えていくのか
- 強制や義務のイメージをやわらげる必要
 - ・ 権利としてのFDの要素を増やす
 - ・ FDの原型はサバティカル制度
 - ・ 自主的な取り組みを発掘し、サポートする
- やり方次第という側面もある
 - ・ 私の場合、内田樹のFD講演、話し方講座の個別レッスン、授業でのfacebookの有効活用、長期の海外派遣研修ならぜひ行かせてほしい。

アメリカの大学改革の最前線を見に行こう

高等教育研究センターでは、コンソーシアム事業の一環として海外研修への参加希望者を募集しています。

参加者には、本年10月22日～25日に米国ネバダ州Renoで開催される大学改革に関わる教職員のためのカンファレンス（2008 POD Network/NCSPD Conference）に出席し、帰国後に成果を報告していただきます。米国の大学もしくは関連機関への訪問見学調査のために米国滞在を数日間延長することも可能です。他大学教職員との交流もふまえて、ご自身の日頃の実践を見つめ直しませんか。熱意ある方のご応募をお待ちしています。

募集人員：教員若干名

応募方法：電子メール本文に、氏名・所属・研修への参加動機（400字程度）・内線番号・電子メールアドレスの5項目を記して、info@cshc.nagoya-u.ac.jpまでお送りください。応募締切は2008年8月1日（金）正午です。応募者多数の場合は、個別面談等を行うことがあります。応募の詳細は下記ホームページにてご確認ください。

<http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/pod2008/>

お問合せ：センター事務局（内線 5696、電子メール info@cshc.nagoya-u.ac.jp）

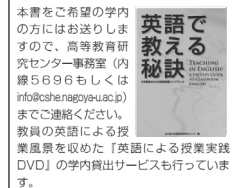
注）POD Networkの詳細はウェブサイト（<http://www.podnetwork.org/>）をご覧ください。

高等教育研究センターかわらばん2008年夏号

多様なニーズに対応できるか

- FDのニーズは個々の教員によって異なる
- 集合研修は、部局別、キャリア段階別、個別ニーズ別など対象教員の設定を考える
- 集合研修とともに、個々の自己研修を組織的に支援する
 - ・ 組織的研修＝集合研修は固定観念？
 - ・ 集合研修が向いている内容と自己研修が向いている内容は異なる可能性

教員のニーズを示す事例



教員が自主的に

- 4時間の集中ワークショップに参加したい 約1%
- ハンドブックがほしい 約20%

教育面の業績評価をどうするか

- 「教員の自主的・自律的な取組が不可欠」と言いつつ、同時に「評価体制を確立する」必要性を指摘する答申
- 各大学の状況に合わせた慎重な取り組みが必要
- 順序や進め方も重要
 - ・ 教員採用時にシラバス提出と模擬授業を課す
 - ・ 教育活動を見えるようサポートする(実践紹介、教科書執筆支援、教材公開支援、ポートフォリオ作成)
 - ・ 表彰制度などほめるほうから始める
 - ・ 授業評価アンケートに過度に依存しない多面的な評価
 - ・ 毎年実施せず認証評価に合わせて実施する

FDでどのような教員組織を目指すか

- 形式的にこなす
 - ・ FDに積極的な意義が認められないなら、外部の評価に耐えられる最小限の活動をする
- 経営的側面を高める
 - ・ 教育目標にそって各教員の役割分担を明確にし、目標、実施、評価のサイクルを確立する
- 同僚的側面を高める
 - ・ 教育に関して気軽に議論しノウハウ共有できる教員組織を目指す。細分化されつつあるコミュニティの統合も念頭に置く

主な参考文献

- 有本章(2005)『大学教授職とFD—アメリカと日本』東信堂。
- 有本章編(2008)『変貌する日本の大学教授職』玉川大学出版部。
- 潮木守一(2009)『職業としての大学教授』中央公論新社。
- 絹川正吉「一般教育学会に於けるFDの展開」(2004)大学教育学会25年史編集委員会編『あたらしい教養教育をめざして』東信堂。
- 大学教育学会25年史編集委員会編(2004)『あたらしい教養教育をめざして』東信堂。
- 中央教育審議会(2008)『学士課程教育の構築に向けて(答申)』。
- トロウ、M. (1976)『高学歴社会の大学』東京大学出版部。
- 中井俊樹(2011)「英語による授業のためのFDの課題」『留学交流』2011年9月号、pp.1-7。
- 中井俊樹編(2008)『大学教員のための教室英語表現300』アルク。
- 中井俊樹・齋藤芳子(2007)「大学教育の質を総合的に向上させる研修教材の評価」『メディア教育研究』第4巻第1号、pp.31-40。
- 夏目達也、近田政博、中井俊樹、齋藤芳子(2010)『大学教員準備講座』玉川大学出版部。
- バーンバウム、R. (高橋靖直訳) (1992)『大学経営とリーダーシップ』玉川大学出版部。
- ボイヤール、E. (有本章訳) (1996)『大学教授職の使命—スカラーシップ再考』玉川大学出版部。
- 文部科学省(2011)『平成22年度文部科学白書』。



名城大学

文部科学省：大学生の就業力育成支援事業

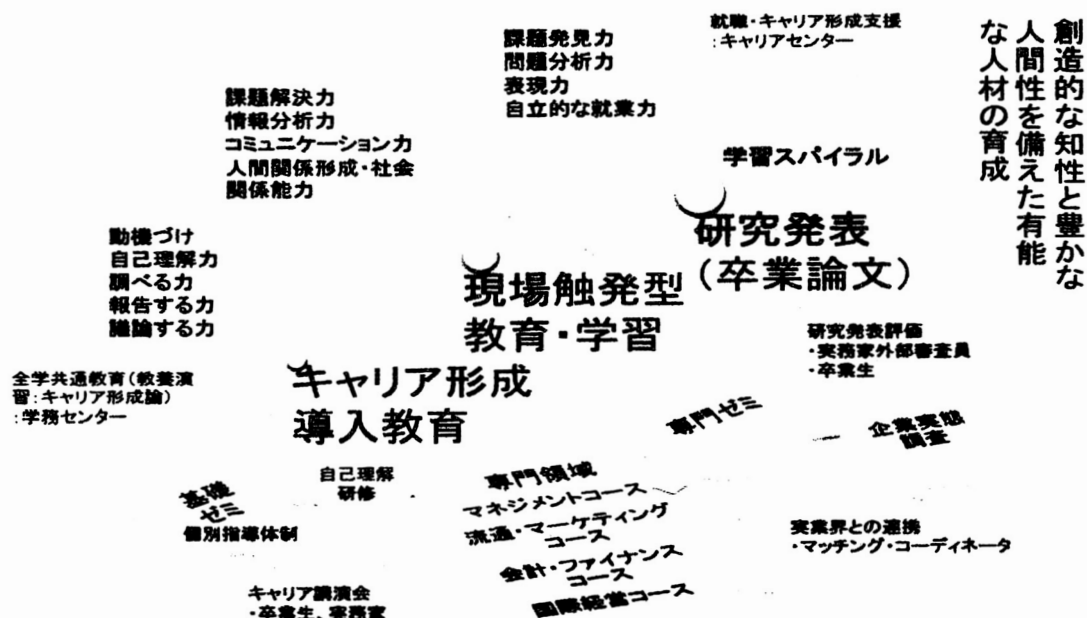
選定プログラム：現場触発型教育・学習による就業力の育成

名城大学経営学部は、学部理念・目的として実践的能力と開拓者精神にあふれる、創造的な知性と豊かな人間性を備えた有能な人材の育成をめざし、カリキュラムを編成している。カリキュラムの特徴は、初年次者を対象にマネジメント、会計・ファイナンス、流通・マーケティングなどの入門科目を充実し、学生個々人の問題意識・キャリア形成に適合した専門領域の確かな選択に資するとともに、会計科目（簿記の関連科目）・IT・外国語やインターンシップ、国際フィールドワーク等の実務実習関連科目の充実が図られている。その一方で、1年次生から4年次生まで「基礎ゼミナール」及び「専門ゼミナール」からなる一貫したゼミナール教育が行われ、導入教育から卒業論文作成までの個別指導体制が整備されている。

本取組は、少人数教育の個別指導体制が整っているゼミナール教育を主たる場を実施される。取組は基礎ゼミナールでの「キャリア形成導入教育」、専門ゼミナールでの「現場触発型教育・学習」及び「研究発表」を導引力として、学生の将来展望・キャリア形成に対する意識を高め、体系的な学知・技法の学修の深化を動機づけ、さらに専門領域の科目群や実務実習関連科目を履修することによって、自立的な就業力を育成する。

取組の基礎となるゼミナール教育を具体的に述べると、

講義・ゼミナール・企業実態調査による三位一体型の現場触発型教育・学習



このような講義・ゼミナール・企業実態調査による三位一体の学習スパイラルを通して、職業人としての資質を養成し、社会的・職業的自立を可能とする素養の形成を図ります。

受業科目 経営学系(経営学部)

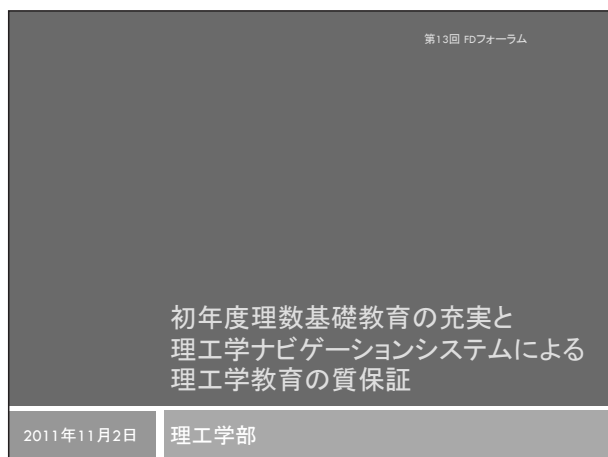
[illegible]

* (特Ⅰ)主たる(特Ⅱ)の表記がある科目は、毎年必ず履修できる科目ではありません【Ⅳ】学修要項参照】

教育改善の取組 2 「教育の充実と理工学ナビゲーションシステムによる理工学教育の質の保証」

理工学部 佐川 雄二 教授

1



2



3



4



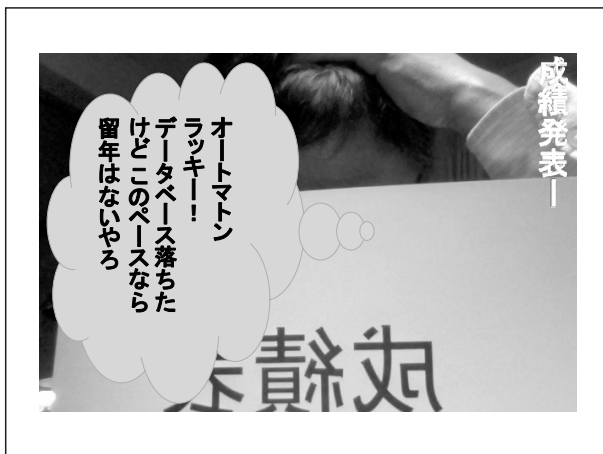
5



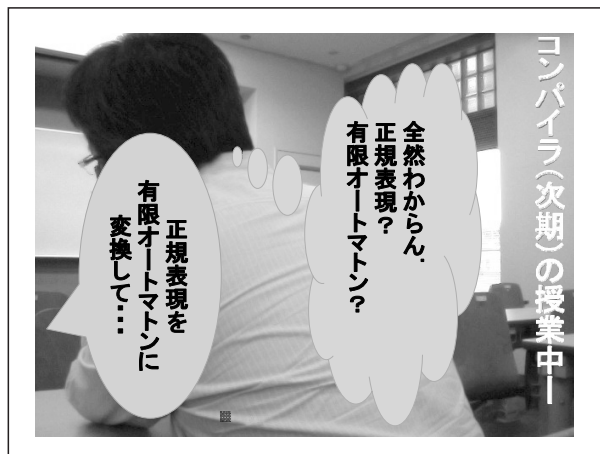
6



7



8



9

そして

見事コンパイラは惨敗。
他の科目も同じ調子で落としまくり、
結局「留年」してしまったS君であった。

第13回 FDフォーラム 2011年11月2日

10

背景

- 最近の理工学部生像
 - 学習に継続性がない
 - 高等学校までの受身的な学習スタイルから脱却できない
 - 学習に目的意識がない
 - 自分の学力不足を認識していない
 - 基礎学力が足りない
 - 学習に必要な基礎知識を高等学校で習熟していない
 - 全体的に学力が不足している
 - 学ぶ意欲の低下

第13回 FDフォーラム 2011年11月2日

11

取組の概要

- 基礎学力の低下に対し
 - 自分の現状を知り、今後の学習に必要な準備をさせる為に
 1. 数学基礎知識習熟度自己診断テストの実施
 - 数学科以外の入学生全員に対し実施
 - スコアの低い学生に対しては、基礎演習クラスの受講するように強く指導
 2. 基礎演習(補習クラス)の実施
 - 1年次の数学の学修に支障のないレベルまで引き上げ
 - 上級者向けのアドバンスクラスも開講

第13回 FDフォーラム 2011年11月2日

12

取組の概要

- 基礎学力の低下に対し
 - 学習がうまく行かない場合、速やかに修復させる為に
 3. 理工学基礎科目相談室の開設
 - 定期試験前の数日開設
 - 教員、大学院生が待機し、学生からの自由な質問に答える
 4. 再試験・再履修専用クラスの実施
 - 定期試験50点台の不合格者に、補習の受講とレポートの提出を義務つけた上で、再試験を実施
 - 再履修を1年後でなく次の期に開講し、より早期の学修を支援

第13回 FDフォーラム 2011年11月2日

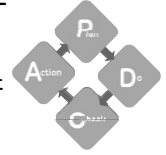
取組の概要

- 学習に継続性を持たせる為に
 - 自律した学習スタイルへの切換えを支援
 - 卒業後の具体的な目標を描き
 - それに向かって体系的に計画を立てて学習し
 - 必要に応じて足りない部分を補って次の学習に向かう
- = 学習のPDCAサイクルの確立
- 5. 理工学ナビゲーションシステムの導入

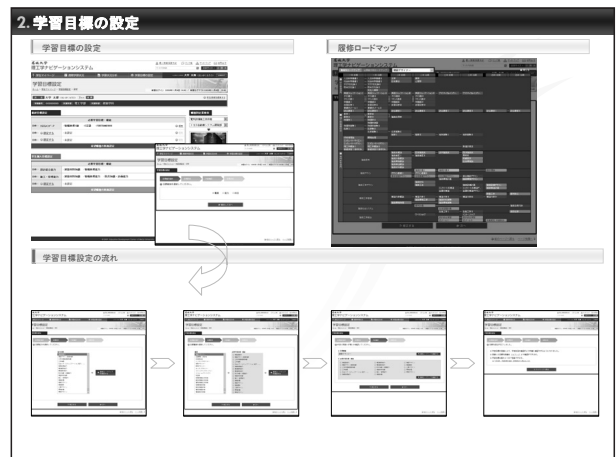
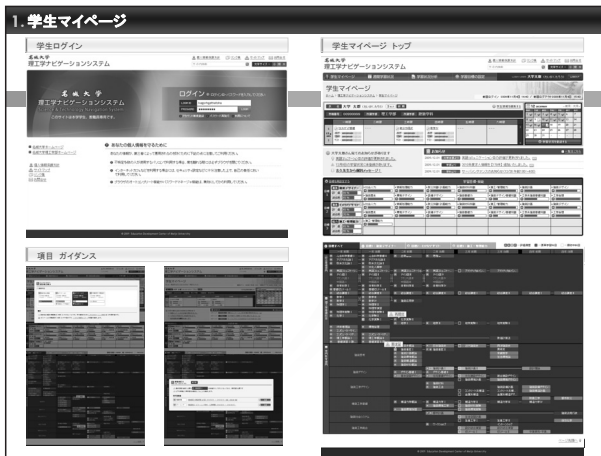
第13回 FOフォーラム 2011年11月2日

理工学ナビゲーションシステム

- 学習PDCAサイクルを支援し、学生に自律した学習スタイルを身につけさせる
- より効果的に各ステージを実行するための支援
 - 学生が各ステージを確実に実行したかチェックし、必要に応じてアドバイス
 - 学生の学習記録を保存、学習カルテや学習ポートフォリオとして活用可能
- Web上で動作し、学生は学内・自宅から自由な時間に使用可能



第13回 FOフォーラム 2011年11月2日



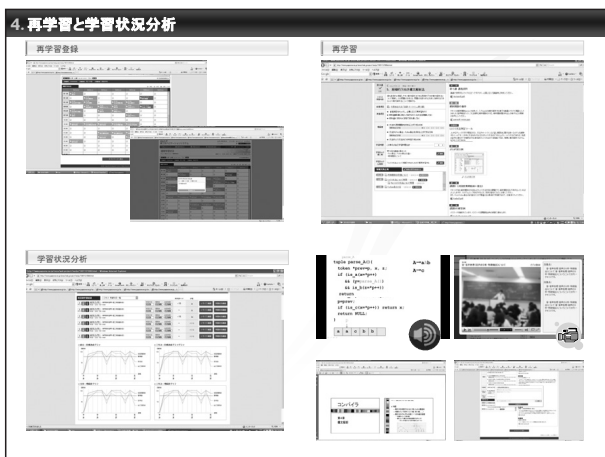
19



20



21



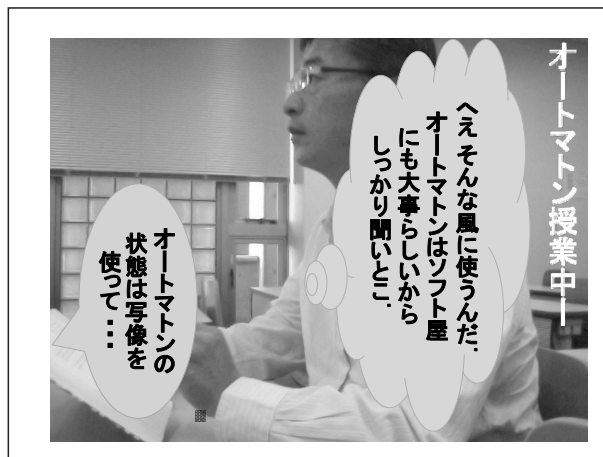
22



23



24



25



26



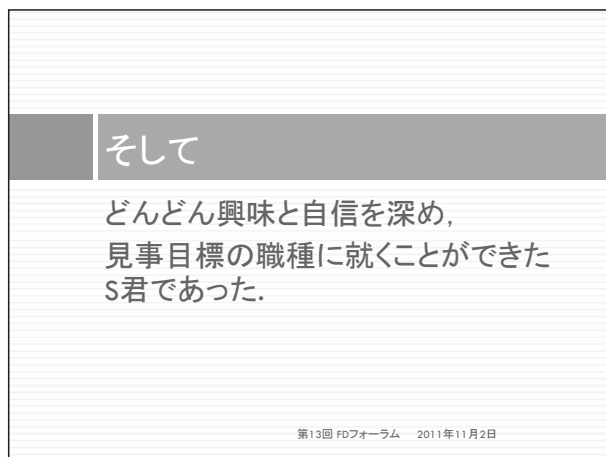
27



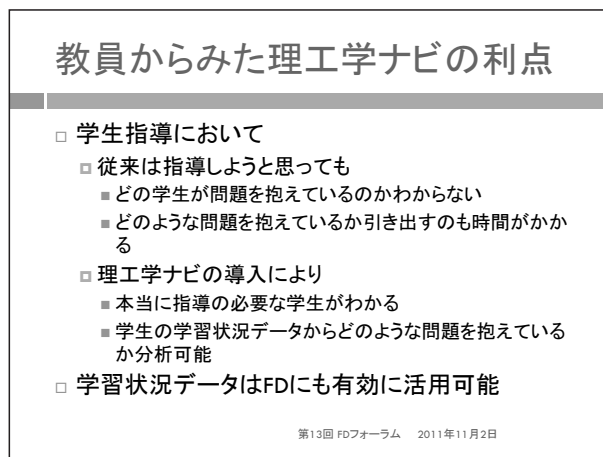
28

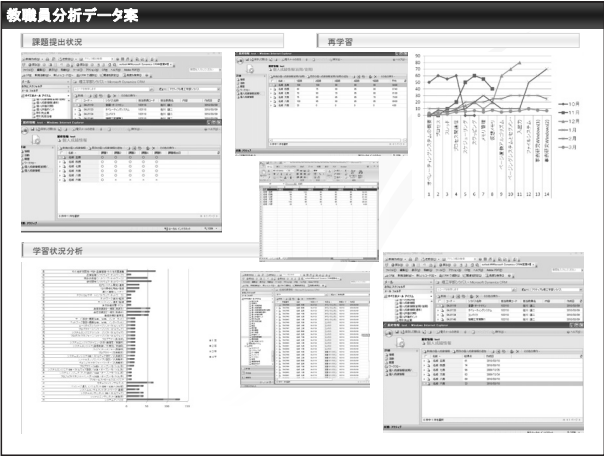
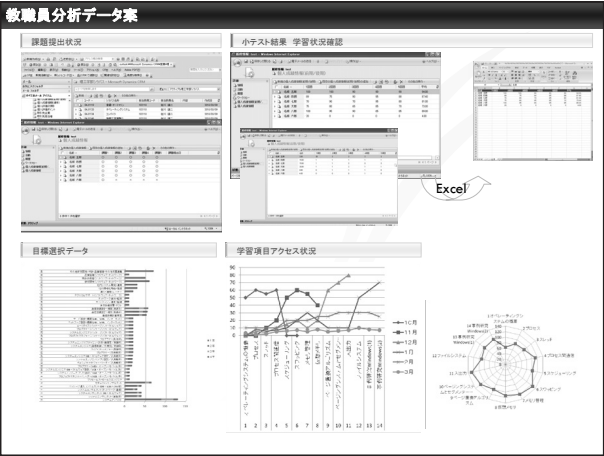


29



30





取組の経緯	
21年4月	理工学教育推進センター委員会で検討開始 各学科1委員，関係委員長，事務職員
21年度	教育・学習の改善・創成プログラム 採択
21年10月	名城大学とマイクロソフトの連携事業の一つに加えられる マイクロソフトの紹介により、開発業者が決定
22,23年度	教育の質保証プロジェクト 採択
23年度末	学生側システムの完成予定
24年度以降	運用に向けての展開

第13回 FDフォーラム 2011年11月2日

教育改善の取組 3 「里山における生物多様性と化学的環境評価による実践的生物環境教育」

農学部 新妻 靖章 准教授

1

里山における生物多様性と化学的環境 評価による実践的生物環境教育

2

取組の概要

- フィールドに根ざした実践的な生物環境科学教育を実施することにより、生物多様性について科学的に深く理解し、将来、環境や環境教育等の各種分野において精力的に活躍可能な人材を養成することにある。
- 1年次において生物環境科学実習と生物学実験を通して里山における生物多様性の現状の理解を目指す。
- 2年次と3年次の実験において、生物多様性を維持するメカニズムを分子レベルまで理解するため、里山にて生物相互作用を調査し、その生物環境について実験室内で生化学的定量・定性分析を行う。
- 農学部合同卒業研究発表会や大学祭において、ポスター発表をする。卒業研究発表会に1年次より参加することで、卒業までの4年間で学ぶべき目標を明確にすることを可能とさせる。

3

何故、農学部生物環境科学科で本 取組を立ち上げたか？

- 化学に対する理解度の不足
- 基礎的な数学に関する学力の低下
- 英語力の低下

4

農学部生物環境科学科の教員が 取り組める課題として、

- 「里山における生物多様性と化学的環境評価による実践的生物環境教育」と、タイトルにあるように、生物多様性を取り巻く環境は、化学的な手法を用いて定量的に評価すること学ぶ必要がある。

5

農学部生物環境科学科の教員が 解決できない課題として、

- 基礎的な数学に関する学力の低下
全学共通教育で数学の科目を増やすべき、
- 英語力の低下
研究室に配属後、ゼミでは英語の論文を読むが、年々英語の読解力が顕著に落ちている。全学共通教育以前は、まだましだった。

6

実施計画

- 1年次の生物環境科学実習において、名古屋市の愛岐処分場の里山にて、生物の観察・採集を行い、里山における生物多様性の現状を把握する。
- 2年次の生物環境科学実験Ⅰでは、大台ヶ原にて野生動物の生態調査を行い、シカの増加による生物多様性への影響を学ぶ。
- 3年次の生物環境科学実験Ⅱでは、里山環境について化学的な評価を行うため、1年生が愛岐処分場で採集したサンプルを用いて動植物および微生物の生態理解に関わる生化学的定量・定性分析方法を学ぶ。

7

取組の実績:生物環境科学科実習の実施

- 名古屋市の愛岐処分場の里山にて、生物の観察・採集を行い、里山における生物多様性の現状に関する生物環境調査を実施した。
- 本実習で採集した植物、土壌動物、地表徘徊性昆虫および微生物の標本は、生物学実験の材料として用い、生物環境評価の測定やその手法を実験の中で学んだ。

8

取組の実績:生物環境科学科実習の実施



9

取組の実績:生物環境科学実験 I

- 奈良県大台ヶ原にて野生動物の生態調査を宿泊にて実施した。シカの増加による生物多様性への影響を調べるため、シカの侵入を防ぐ防護柵の内側と外側にて、シカの餌となるササ、小型哺乳類および地表徘徊動物の定量調査を実施した。
- 本調査にて採集した生物標本、特にササを生物環境科学実験 I で栄養学的分析を行い、シカの環境収容力の観点から考察を行った。
- 本実験の野外活動や宿泊を通じて、教員と学生あるいは学生間のコミュニケーションをはかった。

10

取組の実績:生物環境科学実験 I



大台ヶ原の様子



ササの栄養分析の様子

11

取組の実績:生物環境科学実験 II

- 1年生が愛岐処分場で採集したサンプルを用いて動植物および微生物の生態理解に関わる生化学的な定量・定性分析を実施し、その手法を学んだ。
- これにより里山環境について化学的な評価を行う重要性の認識を深めた。

12

具体的な成果:生物環境科学科実習

- 最もみじかな自然である里山における野外活動を通して、その生物多様性についての意識の向上ができた。
- 本取組の成果は、名城大学学園祭にて学術発表を行い、平成22年度は学長表彰を受けた。
- その発表準備のため学生の自主的な活動として、正規の実習時間外に里山調査の実施や実験によるデータの収集を行った。これら学習意欲の向上は本取組の成果の一つである。

13

具体的な成果:生物環境科学実験Ⅰ

- 奥山の自然環境が、シカの増加により、生物多様性の喪失の危機にあることを実体験できた。
- 野生動物の生態調査方法を学ぶことができた。
- シカの主要な餌となるササの栄養学的分析を行った。栄養学的な測定値と生態調査で得られたシカの棲息密度の関係から、野生動物の環境収容力を導くことができた。
- 奥山の生物環境を科学的に評価するためには、野外活動を中心とした生態調査だけでなく、実験室での化学的な分析の重要性について認識を深めることができた。
- 宿泊をともなう野外活動を通じて、コミュニケーション力や協調性を養うことができた。

14

具体的な成果:生物環境科学実験Ⅱ

- 1年生が愛岐処分場で採集した土壌や植物を供試サンプルとし、化学成分の抽出、分離、解析を通じ化学物質の取り扱い並びに環境影響評価の手法を習得した。

15

その他の特記事項

- **2年次の生物環境科学実験Ⅰ**の成果について、特に優秀なレポートを添付する。
- 本取組の趣旨である「フィールドに根ざした実践的な生物環境科学教育を実施することにより、生物多様性について科学的に深く理解し、将来、環境や環境教育等の各種分野において精力的に活躍可能な人材を養成すること」の前半部分については十分に達成できた。
- 本趣旨の後半部を達成するためには、本取組の継続的な実施が不可欠である。

16

その他の特記事項

- フィールド活動では、一人の教員が約30人の学生を指導する。もっと教員が多ければ、実践的な教育が可能となる。教員を増やすことはできないので、各研究室の所属学生・院生のサポート体制を築く必要がある。
- 下級学生を指導する責任力、教えるための事前学習、教えるという能力などは、将来、環境や環境教育等の各種分野において精力的に活躍するための必要な能力である。

17

平成22年度以降の取組の展開

- 平成23年度審査ヒアリングで説明

18

取組の趣旨

- 自然環境の豊かさを生物多様性という指標を通して深く理解し、将来、環境や環境教育等の各種分野において精力的に活躍可能な人材を養成することにある。

19

新たな取り組みとして

- ゆとり教育のため基礎学力が十分でないことを配慮し、1・2年次に開講される生物環境科学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲにおいて、生物環境を深く理解するために必要となる生物学、化学、生化学に関する基礎を養う。

20

継続すべき取組と改善する取組

- 里山から奥山まで幅広い自然環境における野外活動・調査と実験室内での化学・生化学的分析の両者を融合を目指す。
- 特に、生物環境科学実験Ⅱでは、自然環境の豊かさを評価する手法を学ぶ。
- 成果については、大学祭や卒業研究発表会において、ポスター発表をする。
- 卒業研究発表会に1年次より参加することで、卒業までの4年間で学ぶべき目標を明確にさせる。

21

取組べき学科の課題

- 入学した学生の動機づけを行い、卒業までの4年間で学ぶべき目標を明確にさせる。
- 本取組は少なく4年間、継続する必要
- 自然環境における実践的教育の継続
- 環境の豊かさの総合理解(生物と化学の融合)
- 発進力の強化

22

取組の目的

- 里山環境は人によって森林が利用されることで、奥山環境ではシカなどの大型草食獣の個体数を適正に管理することで、高い生物多様性が維持されることを、実習と実験から学ばせる。
- 大台ヶ原にて宿泊を伴う野外学習を通じて、環境教育の現場で必要とされる協同で活動するための協調性やマナーを養う。
- 環境中の汚染物質や生態系内の物質循環などを化学的あるいは生化学的に分析する必要がある。

教育改善の取組 4 「英語実践力向上のための自律学習システム運営」

人間学部 一ノ谷 清美 教授

1

英語実践力向上のための 自律学習システム運営

名城大学 教育の質保証プロジェクト

MiLC
Mie University Independent Learning Center

名城大学 人間学部

2

日米の子供の英語(環境)比較

USA



■6歳で会話能力

■6年間で
1万7520時間

■1日8時間



JAPAN



■6年間の英語教育
1920時間

■1日 53分



3



時間的に、授業だけで
英語の実践力をつけるのは困難

4

実践的な英語の修得には
身近に、気軽に、
英語にたくさん触れられる
環境が不可欠。

5

Since
2008

MiLC

名城大学
自律学習センター

6

M i L Cの目的



英語の自律学習の場の提供



英語を通じた仲間づくり
(学習動機の維持)



大学英語教育の質保証の一端を担う

7

組織体制（2011年～）

（運営）

- TOEIC教育のエキスパート講師 NEW
- 海外大学を卒業したての帰国子女 NEW
- 高校のネイティブ非常勤講師
- 専任教員（一ノ谷教授、村田教授、Westby准教授）

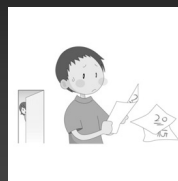
（運営サポート）

- 全学共通教育 英語担当 非常勤講師
- 人間学部事務

8

MiLCの思想

実践力不足
恐怖心



怖さを克服して
アクティブに



9



M i L Cで出来ること

10

①英会話



講師はnative, non-nativeともに英会話が可能。
外国語で会話が通じる感動を味わってもらいたい。

11

②英語指導（TOEIC・各種試験対策など）



TOEIC指導のエキスパートによる各種試験対策を随時実施。もちろん授業の予復習や質問にも対応。

12

③英語の参考書・問題集の貸し出し



図書館にはあまり置いていない英語の参考書や資格試験問題集を大量に配備。

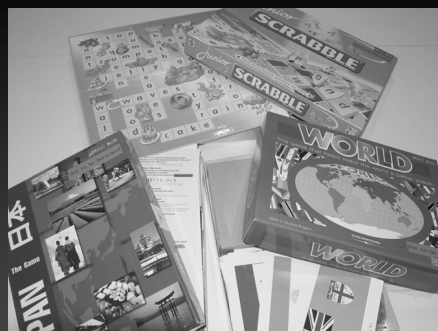
13

④英語を楽しみながら学ぶための様々なgadget



ゲーム機で楽しみながら手軽にトレーニング

14



英語版のボードゲームを使い、
遊びながら英語に触れる。

15

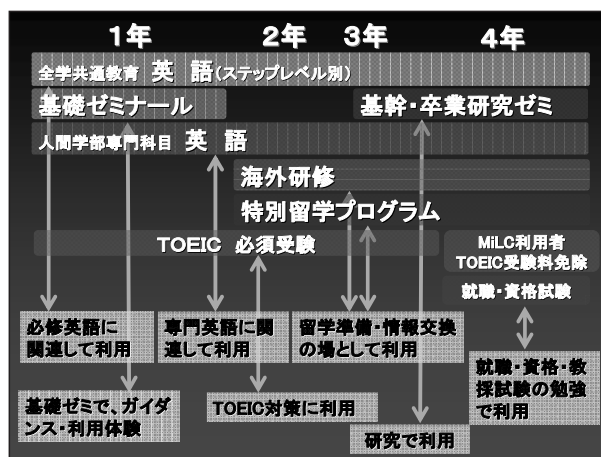
⑤留学の情報交換・相談の場として

2010年度 人間学部 留学実績

- ・ 特別留学プログラム（3～6か月） 6名
- ・ 海外研修（4週間） 69名
- ・ 語学留学（国交C）
- ・ 個人留学 数名

留学を経験した学生の大半が留学準備にMiLCを利用。
これから留学を考えている後輩との情報交換の場としても活用されている。

16



17

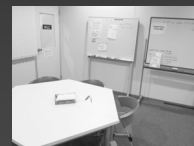
利用者は「MiLC学生
利用カード」に利用し
た日時、取り組んだ
Activityを記入する。

TOEICを受験した場
合は、その得点も記
入する。

18



MiLCの関連イベント



19

Oral Presentation Contest



人間学部主催行事。
決勝進出者は名城ホ
ールで、プレゼンテーシ
ョンを行う。

今年度も開催(第4回)
12月15日(木)
12:45~14:45

20

English Boot Camp !



短期集中特訓講座を
夏休みに2回実施。

①8月18-19-20日
10:00~17:00

②9月6-7日
10:00~17:00

21

English Boot Camp ! 参加者の声

Aさん

人とかかわる場がほしかった。英語を一人より他の学生と一緒に勉強することで刺激になる。英語をしゃべる機会があまりないが、ここに来ると少しでも使えるので来ました。

Bさん

海外に出て英語の楽しさを知った。もっと英語を楽しめるようにとこのコースをとりました。

22

MiLC利用者の統計

23

MiLC利用者数

■平成21年度 延べ 1,965名
(開室日数167日 1169時間)

■平成22年度 延べ 1,697名
(開室日数126日 618時間)

■平成23年度(10月現在)延べ

1日あたり
利用者UP

24

MiLC利用者のTOEIC成績(2010年まで)

	5回未満	5回以上	MiLC全体
利用人数	63	40	103
TOEIC把握人数	40	28	68
平均点	363.25	484.82	413.31
最高点	625	835	835
平均伸び	60.5	103.75	80.37
最高伸び	160	380	380

※利用人数は2010年度利用者カード登録者数

※TOEICスコアは学生が過去に受験した中での最高点

※平均点は、各学生のスコアの平均点

※最高点は、最も高得点を獲得した学生の特典

※伸びは「過去最高点ー過去最低点」で算出

※「最高伸び」は最も点数が伸びた学生

第4回 T&L CAFE～授業を語り合う～ 実施報告

第4回 T&L CAFE～授業を語り合う～実施報告

平成23年12月1日（木）、天白キャンパス タワー75 レセプションホールにおいて、第4回 T&L CAFE～授業を語り合う～を開催しました。T&L CAFE は、Teaching & Learning CAFE の略で、軽食を取りながらリラックスした雰囲気、授業や大学教育に関することを気軽に語り合う場として、FD 委員会自主開発チームが主体となって実施しているものです。

今年度の T&L CAFE は若手教員向けの内容とし、互いの授業における工夫等の情報を共有する機会として、非常勤講師、若手教員及び本学教員19名が参加して行われました。

当日は1時間半という短い時間でしたが、実施アンケートの結果から「他学部の教員と交流を持つことの重要性を感じた」や「自身の講義に活用できる意見を伺えた」という声をいただきました。中でも、今回のテーマである「学生への教え方」について、さらに意見交換を深めたいという声が多く、小池座長（都市情報学部教授）から、この経験を通して、様々なノウハウの共有を今後も続けていきたいとの意見をいただきました。



第4回 T&L CAFE～授業を語り合う～ 参加者アンケート集計結果

○アンケート回答者所属

所属	人数	割合
法	1	7.1%
経済	1	7.1%
経営	2	14.3%
農	1	7.1%
薬	1	7.1%
人間	4	28.6%
都市情報	2	14.3%
非常勤講師	1	7.1%
経営本部	1	7.1%
合計	14	100.0%

1) 本日参加いただいたきっかけについて、○をつけてください。

きっかけ	人数	割合
チラシ	3	21.4%
H P	0	0%
教授会での紹介	3	21.4%
知人の紹介	1	7.1%
その他	7	50.0%

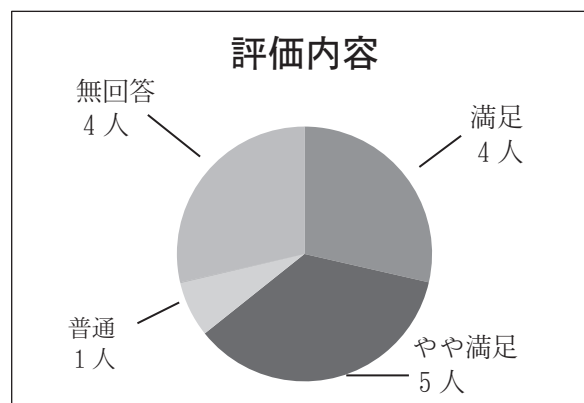
2) 本企画には、どのような内容を求めて参加されましたか。当てはまるものに○をつけてください。

(複数回答含む)

内容	人数	割合
学生の授業マナー	4	20.0%
学生への教え方	6	30.0%
F D活動について	4	20.0%
学生との円滑なコミュニケーション	2	10.0%
成績評価について	0	0%
その他	4	20.0%

3) 実際に参加して、2) についてお答えいただいた項目に関して、当てはまるものに○をつけてください。

評価内容	人数	割合
満足	4	28.6%
やや満足	5	35.7%
普通	1	7.1%
やや不満	0	0%
不満	0	0%
無回答	4	28.6%



4) その他、本企画について、次の項目に関して当てはまるものに○をつけてください。

テーマ	人数	割合
満足	6	42.9%
やや満足	4	28.6%
普通	4	28.6%
やや不満	0	0%
不満	0	0%

開催時期	人数	割合
満足	5	35.7%
やや満足	1	7.1%
普通	7	50.0%
やや不満	1	7.1%
不満	0	0%

時間帯	人数	割合
満足	5	35.7%
やや満足	2	14.3%
普通	7	50.0%
やや不満	0	0%
不満	0	0%

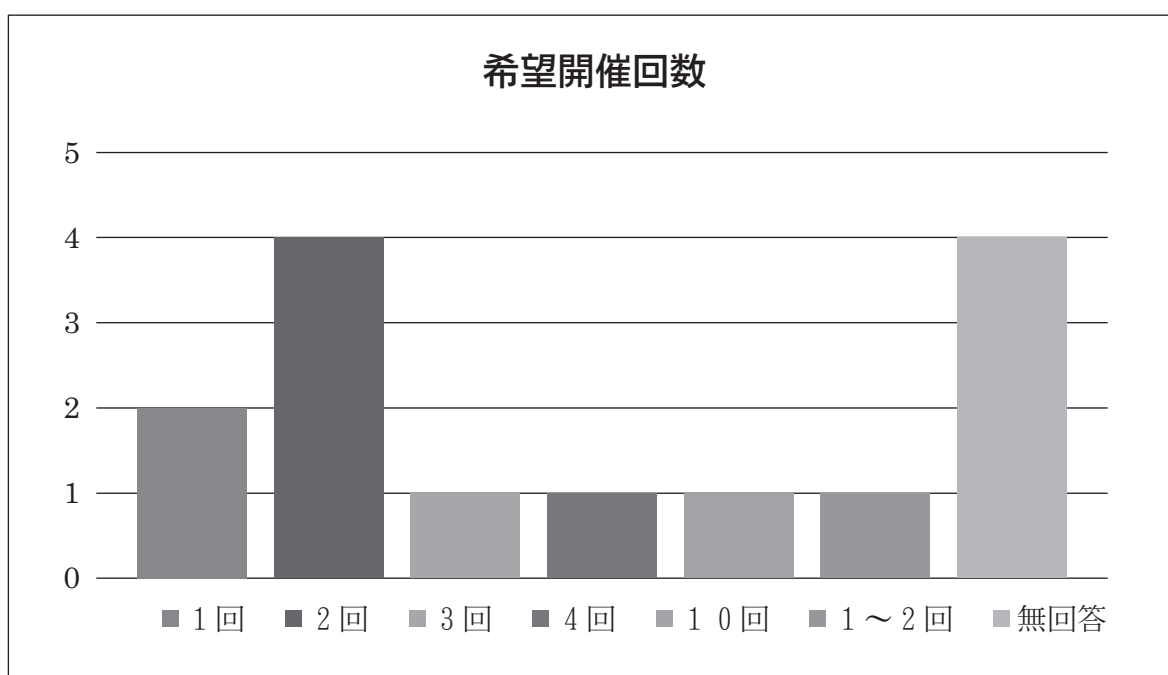
運営方法	人数	割合
満足	6	42.9%
やや満足	3	21.4%
普通	5	35.7%
やや不満	0	0%
不満	0	0%

5) 4) について、「4. やや不満」及び「5. 不満」に○をつけた項目に関して、その理由をお聞かせください。

- ・木曜日は教授会と重なることがあります。

6) T&L CAFE のような場が年にどのくらい開催されるとよいですか。

希望回数	人数	割合
1 回	2	14.3%
2 回	4	28.6%
3 回	1	7.1%
4 回	1	7.1%
10回	1	7.1%
1 ～ 2 回	1	7.1%
無回答	4	28.6%



7) その他、感想及び要望等ございましたら、ご自由にご記入ください。

- 学生を参加させるべきだと思う。
- 大変参考になりました。今後更にFD活動を勉強せねばと思っています。
- いろんな意見が聞けました。勉強になりました。
- 授業改善アンケートの活用についても議論するとよいのではないか。
- FDなどに限らず、他の学部の先生と交流をもつことが重要であると感じた。
- グループ別の話し合いとは別に、全ての参加者と話し合う機会があれば更に良かったと思います。
- 各先生方が各担当授業、学生指導にどれほど熱意を込められるか、また学生がそれを受け止められるかが大切であると考えております。

本日はT&L CAFEにご参加いただきありがとうございました。つきましては、今後のFD活動において参考になるご意見をいただきたいと思いますので、
本アンケートにご回答くださいますようお願いいたします。
ご記入後は出入り口付近に回収箱を用意してございますので、退会の際にお入れください。

1. チラシ 2. HP 3. 教授会での紹介 4. 知人の紹介 5. その他【 】

1. 学生の授業マナー 2. 学生への教え方 3. FD 活動について 4. 学生との円滑なコミュニケーション
5. 成績評価について 6. その他【 】

1. 満足 2. やや満足 3. 普通 4. やや不満 5. 不満

- (テーマ) 1. 満足 2. やや満足 3. 普通 4. やや不満 5. 不満

- (開催時期) 1. 満足 2. やや満足 3. 普通 4. やや不満 5. 不満

- (時間帯) 1. 満足 2. やや満足 3. 普通 4. やや不満 5. 不満

- (運営方法) 1. 満足 2. やや満足 3. 普通 4. やや不満 5. 不満

- []

- 年【 】回

- $$\left[\begin{array}{c} \\ \\ \\ \end{array} \right]$$

)

ご協力ありがとうございました。

教育優秀職員表彰制度在り方検討委員会における検討結果報告

1. 検討委員会発足の経緯

教育優秀職員表彰制度は、優れた教育効果をあげた教育職員を表彰し、もって教育職員の教育に対する意識を高め、教育の質の向上に資することを目的として、平成17年度から実施され、計17名に賞を授与してきた。平成21年度には受賞基準の向上を目的とし、他薦のみを認めることとした。

平成22年度F D委員会においては、本制度の課題として以下の点が示された。

①交互に推薦し合う推薦（推薦者・被推薦者の関係）

②複数の候補者の推薦

③優れた教育業績に対する選定基準

これらの課題の検討及び制度の在り方を見直すにあたり、第1回F D委員会（平成23年7月11日開催）において、「教育優秀職員表彰制度在り方検討委員会」を設置することが承認され、当該委員会において審議を進めることとなった。

2. 検討委員会の論点

教育優秀職員表彰制度在り方検討委員会における計3回の審議の結果、①制度目的を教員個人の教育業績の表彰とするのではなく、組織的な教育改善への貢献に対する表彰制度とすること、②受賞者の選定基準、③インセンティブの在り方、等が主な論点となった。

3. 検討委員会の審議経過

第1回 教育優秀職員表彰制度在り方検討委員会 平成23年9月7日開催
概要及び課題を確認した後、意見交換を経て、よりよい制度に改善する方向で検討を進めることが了承された。
第2回 教育優秀職員表彰制度在り方検討委員会 平成23年11月7日開催
第1回の方針を受けて、教育活動等の褒章の考え方について整理し、教学における褒章制度に位置付け、取組をたたえる方向に舵取りすることを基本として、引き続き、検討を重ねることが了承された。
第3回 教育優秀職員表彰制度在り方検討委員会 平成24年1月13日開催
第2回検討委員会では了承された方向性に基づき、各学部等における組織的な教育活動等への貢献に対して、教学として褒章する「教育功労賞」として再編することを柱とすることをF D委員会委員長に答申することが了承された。

教育優秀職員表彰制度在り方検討委員会

委員長 宮嶋 秀光 大学教育開発センター長

杉村 忠良 理工学部

前林 正弘 農学部

田中 敦夫 学務センター

4. 検討委員会における結論

以上審議された結果、教育優秀職員表彰制度は、以下のように制度を修正して存続させることとなった。

	変更前	変更後
名称	教育優秀職員表彰	教育功労賞
目的・位置づけ	教員個人の教育業績の表彰とし、理事長から表彰を受ける	各学部等主体の組織的な教育改善に繋げることとし、学長が表彰する 受賞者には優れた教育成果を全学に波及させるような取組を推進いただく
概要	本学職員から、優れた教育効果をあげた教育職員を推薦（他薦）いただき、F D委員会の下、受賞者の選考を行う	厳格な推薦制度を担保するため、各学部等から、当該学部における教育活動及び教育改善に大きく貢献した者をF D委員会に推薦いただき、F D委員会の下に設置した、教育功労者選考委員会で受賞者の選考を行う

5. 今後の課題

以下の点については、F D委員会の下、検討を進めることとなった。

- ①各学部候補者を選考いただく際に基となる選定基準
- ②用途の使途を含めた副賞の在り方

【参考：平成22年度以前の教育優秀職員表彰者一覧】

表彰年度	所属	氏名	教育成果テーマ
平成17年度	理工学部	伊 藤 政 博	名城大学 ISO14001の運用に連結と融合を目指した環境教育
	薬 学 部	武 田 直 仁 橋 爪 清 松 竹 内 烈 川 村 智 子	学生実習における評価法の開発と実戦星 ー学習者の内発的動機づけを高めるためにー
	理工学部	塚本弥八郎	授業評価アンケートの分析手法と改善ポイント表示システムの構築
	理工学部	松 本 幸 正	CS 授業評価分析手法の基本的枠組みの開発と応用的運用
	法 学 部	米 田 勝 朗	名城大学女子駅伝部に対する競技指導の実践と成果
平成18年度	都市情報学 部	亀 井 栄 治 宇 野 隆	愛知県立犬山高等学校との高大連携講座実施及びそれに至る 3 年間の試行実績
平成19年度	法 学 部	関 厳	文武両立を目指して
	薬 学 部	平 松 正 行	Web システムを用いた教材開発とユビキタスな教育提供に向けた検討
平成20年度	理工学部	村 上 好 生	実体験形教育を通じての「ものづくり」感性の育成教育
	薬 学 部	小森由美子	薬学部の教育における PBL 導入のための環境整備、および薬学教育における感染予防策の啓蒙と予防接種指導等への貢献
平成21年度	薬 学 部	武 田 直 仁	学びを伴う高大連携ー実験講習会が大学の教育力にもたらす成果
平成22年度	薬 学 部	飯田耕太郎 田 口 忠 緒	6 年制薬学教育における初年次教育の構築・展開のための教育法の考案と実践

6. 大学教育改革フォーラム in 東海2012

大学教育改革フォーラム in 東海2012について

「大学教育改革フォーラム in 東海2012」は、東海地域の大学・短大等に所属する教員や職員が、一堂に会して教育改善の方策について率直に意見交換をしようという趣旨で毎年開催している。本学も他大学と共同で企画・運営に携わっており、以下に本学の主な報告事例を紹介する。

1. オーラルセッション

「改めて考える教養教育改革」

企画目的：

1991年の大学設置基準大綱化後、多くの大学が教養教育改革に取り組んでいる。大学設置基準大綱化後には、教養部を基礎に新学部の設置等、専門教育を重視する傾向にあった。その後は、大半の大学が教養教育の実施組織を設置し、全学共通的教育体制に変化してきている。これまで教養教育を担当してこなかった教員も「全学出動体制」で教養教育を支える体制が基本となり、カリキュラムも問題探求型のカリキュラムへの移行や情報科目の重視、実践的な外国語教育（英語）等を柱として整備されるようになった。

しかし、引き続き、従前の教養担当の教員が、多くの教養教育の授業を担当しているのが実態である。

本セッションでは、全学共通教育に移行した後、教養教育改革の新たな方向として、学部単位の教養教育を実施する大学とともに、全学共通で教養教育を実施する大学から報告を受け、教養教育の在り方について、名城大学、中京大学、南山大学の3大学から報告をいただき、その後、パネルディスカッションを通じて、共通認識を得ることをねらいとした。

本学の報告内容：

- テーマ 全学共通教育の新たな方向性について
- 発表者 森川 章 名城大学副学長／経営学部教授
- 発表内容

名城大学では2005年度から全学共通教育体制による教養教育を実施してきた。しかし、学部ごとの学生の状況が把握し難くなったこと等が問題視されるようになり、各学部で教育課程を再編し、2014年度から学部単位で教養教育を実施し、PDCA サイクルを回すこととなった。

このような名城大学教養教育改革の議論の過程において現れた全学共通教育体制の課題について紹介を行った。

2. ポスターセッション

「現場触発型教育・学習による就業力の育成（経営学部報告）」

企画内容：

名城大学経営学部では、少人数教育の個別指導体制が整っているゼミナール教育を主たる場を実施されている。本取組は基礎ゼミナールでの「キャリア形成導入教育」、専門ゼミナールでの「現場触発型教育・学習」を導引力として、学生の将来展望・キャリア形成に対する意識を高め、体系的な学知・技法の学修の深化を動機づけ、さらに専門領域の科目群や実務実習関連科目を履修することによって、自立的な就業力を育成している。

「大規模大学における学士力向上に向けた就職支援の充実（キャリアセンター報告）」

企画内容：

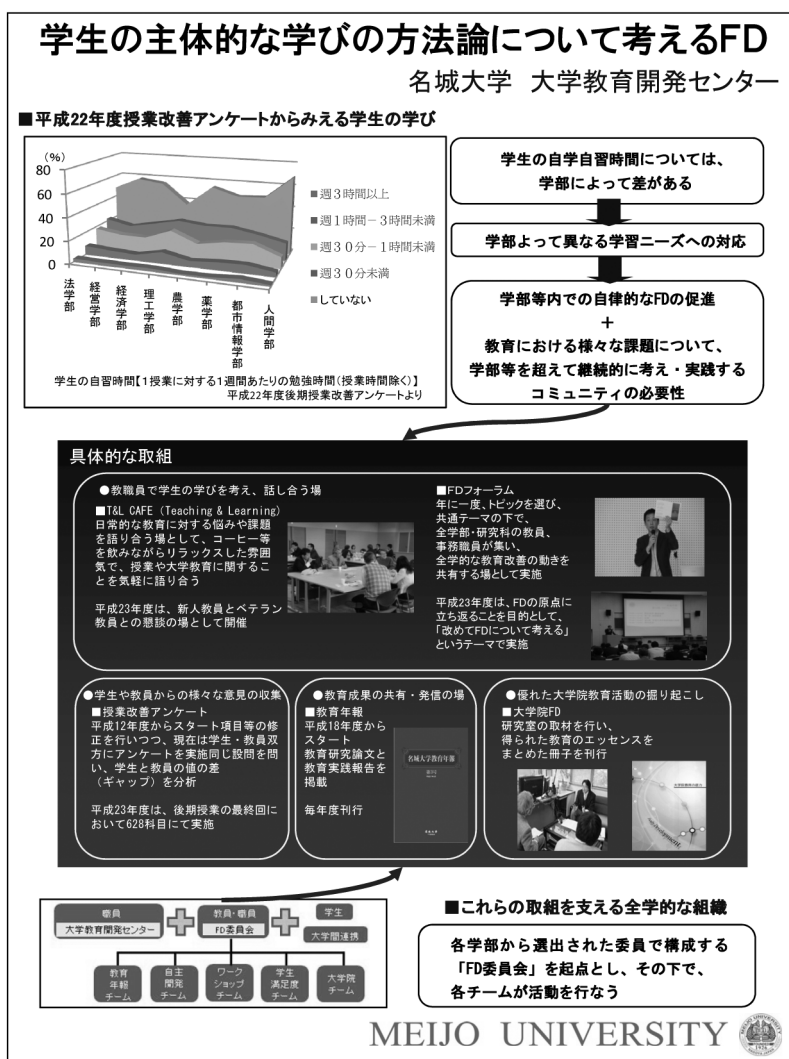
本事例は、学生が社会人としての基礎力を向上させ、主体的に行動できる力が身に付いたと実感できるようにさせる取組である。具体的には、本取組終了後に参加学生に対してアンケート調査を実施し、本取組開始前に比べ、就職力が向上したと実感する学生が8割以上に達することを目標としている。

「学生の主体的な学びの方法論について考えるFD（大学教育開発センター報告）」

企画内容：

名城大学では、教育改善の知恵と工夫を共有する場として、FD 委員会や大学教育開発センターを中心に FD 活動を推進している。これまで、FD 活動方針を「学生の主体的な学びを促すための、教育活動の探究・実践および蓄積を目指した FD 活動環境構築」と定め、学生の主体的な学びの方法論について考える FD 活動を推進してきた。

本発表では、名城大学の FD 活動を「学生の主体的な学びの方法論について考える FD」という視点で捉えなおし、授業アンケートのデータなどから見えてくる学生の学びの現状や、学生の主体的な学びを促す授業づくりの取組、FD の課題について考察した。



発表資料（学生の主体的な学びの方法論について考える FD）

7. 資 料

F D 委 員 会 要 項

（目的及び設置）

第1条 名城大学学則第24条の2に規定する教育内容等の改善を図るため、FD委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（任務）

第2条 委員会は、次の事項を検討・助言・実施する。

- (1) 本学の教育内容及び教育環境の改善に関すること
- (2) 教育技法の改善・向上のための具体的活動に関すること
- (3) 単位制度の機能化を図るための具体的活動に関すること
- (4) 学生による授業評価の実施・結果公表と授業改善に関すること
- (5) 教員の資質開発を図るための組織的な研修に関すること
- (6) 教育優秀教員の表彰に関すること
- (7) その他委員会が必要とすること

（組織）

第3条 委員会は、次の委員をもって組織する。

- (1) 副学長
- (2) 大学教育開発センター長
- (3) 学務センター長
- (4) 各学部から選出された教育職員2名
- (5) 各独立研究科から選出された教育職員1名
- (6) 薬学部及び都市情報学部から選出された事務職員各1名
- (7) 経営本部から選出された事務職員1名
- (8) 学務センターから選出された事務職員3名
- (9) キャリアセンターから選出された事務職員1名
- (10) 入学センターから選出された事務職員1名

（委員長及び副委員長）

第4条 委員会に、委員長及び副委員長を置く。

- ② 委員長は、副学長を充てる。
- ③ 副委員長は、委員の中から委員長が指名する。

（任期）

第5条 第3条第4号から第10号の委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

- ② 委員が欠けた場合の補充委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議)

第6条 委員会は、委員長がこれを招集し、その議長となる。

② 委員長に事故あるときは、副委員長がその職務を代行する。

③ 委員会は、委員の3分の2以上の出席により成立する。

④ 委員会の議事は、出席者の過半数で決し、可否同数のときは、議長がこれを決する。

(委員以外の出席)

第7条 委員会は、必要に応じて委員以外の者の出席を求め、意見又は説明を聴くことができる。

(小委員会の設置)

第8条 委員会は、必要に応じて小委員会等を置くことができる。

(事務)

第9条 委員会の事務は、大学教育開発センターで処理する。

附 則

この要項は、平成13年7月21日から施行する。

附 則

この要項は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成18年7月10日から施行し、平成18年6月1日から適用する。

附 則

この要項は、平成21年6月19日から施行し、平成21年4月1日から適用する。

平成23年度 所属別 F D 活動参加状況

所 属			所属人数 (※1)	H23後期授業改善 アンケート	FD フォーラム	T&L C A F E	教育年報		学外セミナー・ 研究集会等 への派遣
							研究論文投稿 (※2)	実践報告投稿 (※2)	
教 員	法学部	法学科	21	13	3	1			1
		応用実務法学科	17	14	1				
		計	38	27	4	1			1
	経営学部	経営学科	16	14	6	1			
		国際経営学科	14	13	2	1			
		計	30	27	8	2			
	経済学部	経済学科	17	14	5				
		産業社会学科	12	5	6	3			
		計	29	19	11	3			
	理工学部	理工学部	2		1				
		数学科	18	16				1	
		情報工学科	19	14	1				
		電気電子工学科	19	13					1
		材料機能工学科	16	11	2				
		機械システム工学科	17	15					
		交通科学科	17	13	1				
		建設システム工学科	16	10	1				
		環境創造学科	14	8	1		1	1	
		建築学科	16	11	1				
		総合基礎部門	14	10	2				
		計	168	121	10		1	2	1
	農学部	生物資源学科	17	8	2	1			
		応用生物化学科	13	12	3	1			
		生物環境科学科	13	10	3				
		総合基礎部門	1						
	薬学部	計	44	30	8	2			
		薬学科	60	25	9	1	2	3	1
		総合基礎部門	2	1					
		分析センター	1						
	都市情報学部	都市情報学科	26	23		2			
		人間学部	21	22	11	6		1	1
	大学院理工学研究科		2						
	大学院法務研究科		16						
	総合学術研究科		1						
	大学院大学・学校づくり研究科		4	2					1
	教職センター		6	6	1				
	情報センター		3	3	2				
	総合研究所		5	1					
	総合数理教育センター		3	1	1				
	大学教育開発センター		10	18	1		1		
	学長・副学長		3	1	2				
	小計		472	327	68	17	4	6	5
職 員	監査室		1						
	秘書室		3		1				
	経営本部		7		2				
	大学・附属高等学校振興推進準備室		2						
	総合政策部		11		3				
	総務部		12		1				
	財政部		16		7				
	施設部		14		2				
	入学センター		14						
	学務センター		41		10				4
	保健センター		7						
	大学教育開発センター		8		7				16
	学術研究支援センター		11		1				
	総合研究所		1						
	キャリアセンター		23		1				1
	国際交流センター		5		1				
	情報センター		8						
	附属図書館		8		1				
	法学部		8		1				1
	経営学部		6						4
	経済学部		7		1				
	理工学部		19						
	農学部		19		1				1
	薬学部		11		2				
	都市情報学部		11		1				
	人間学部		6		2				
	小計		279		45				27
	計		761		113		4	6	32

※1 平成23年4月1日現在。

(教員：助手を含む。終身教授、特任教授(1・2・3号)は含まない。副学長は農学部および人間学部を含む。／事務職員：契約職員を含む。派遣職員は含まない。)

※2 延べ人数。代表執筆者のみカウントする。

8. おわりに

編集後記

大学教育開発センター

名城大学のFD委員会委員の任期は2年間となっています。従って、平成23年度のFD活動は新しい委員でのスタートとなりました。

冒頭のFD委員長からの言葉にもあるように、平成23年度以降のFD活動の方針は、「学部主体のFD」です。そのため、全学的なFD活動を推進する名城大学FD委員会は、学部の教育改善を支える委員会へのシフトを志向しています。

大学教育開発センターは、そのような教員中心のFD活動を支援する、大学教育開発センター長をトップとする職員組織です。平成15年4月に、「教育の強みをつくるための内容と環境を支援する」という目的を持ち、教育開発を任務とする組織として設置されました。それ以降、FDの他、GP (Good Practice)、高大接続・連携、全学共通教育、入学前教育及び補修教育等、多くの教育に係る業務を遂行しています。同時に、大学教育における社会的責任を果たすべく、このような取組の成果を学内外に発信することで、大学教育の強みづくりとしての貢献も続けてきました。平成24年4月からは、「教育改善を推進するため、各学部等における教育の質の向上に係る取組に対して支援すること」を改めて目的として位置づけ、FD委員会と同様に、学部の教育改善を支えるセンターとして再出発する予定です。

そのような過渡期にある中で、本報告書は作成されました。次年度以降の名城大学FD活動及び各学部の教育改善を進めるに当たって、本書が一助となることを願っております。

なお、本書は学内外へ発信させていただくと共に、以下、大学教育開発センターホームページ上でも公開しております。FD以外の教育改善の取組成果についても公開しておりますので、皆様の参考となれば幸いです。

名城大学 大学教育開発センター URL：<http://www.meijo-u.ac.jp/edc/>

終わりに、本報告書の企画・編集、各FD活動の企画・運営にご協力いただいた各チームの先生方に御礼申し上げます。

平成24年 3 月

発 行：名城大学 F D 委員会

編 集：名城大学 大学教育開発センター

住 所：〒468-8502

名古屋市天白区塩釜口1-501

電 話：(052)838-2033

FAX：(052)833-5230

H P：http://www.meijo-u.ac.jp/edc/

